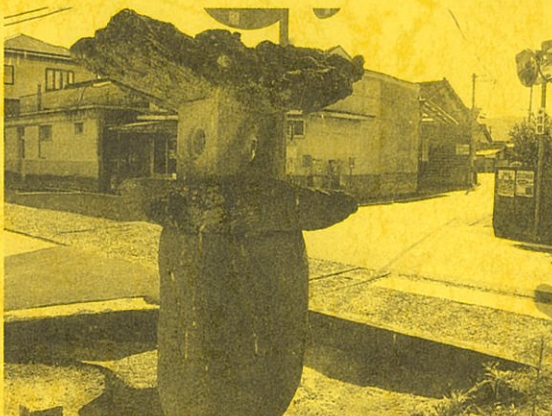
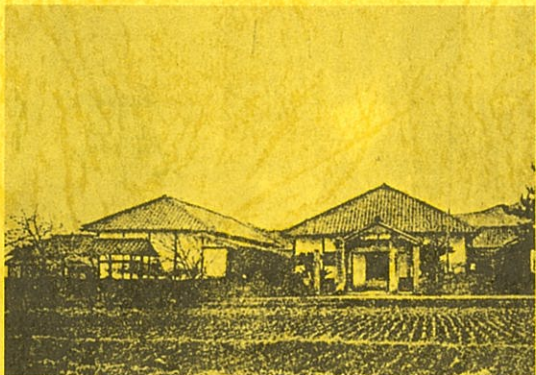


北伊予の伝承

第12集



松前町東公民館



北伊予尋常小学校の前身 霊泉小学校（神崎）

I 座談会 通った学校の思い出とくらしでは、二つのグループに分かれ、学校に通った懐かしい思い出と当時のくらしについて、各地区から選出された経験豊かな方々から座談会でお話を伺いました。まず、戦前のグループでは、昔懐かしい北伊予尋常小学校から戦中の国民学校までの思い出を一〇名の高齢者の方からお聞きしました。また戦後のグループでは、戦後の物資の困窮した時代の六・三制の実施や中学校の分離のことなど一二名の方からお聞きしました。それぞれの貴重な体験は後世に語り継がれるものと思います。写真は、伊予神社西に明治一八年に設置された北伊予尋常小学校の前身「霊泉小学校」です。



県道改修記念碑（永田）

II 北伊予の幹線道路沿いの家並みの移り変わりでは、各地区から選出された編集委員が自分の地区を担当しました。

まず、概況で北伊予地区の主要道路についてふれ、九つの各地区では地区の位置、旧街道、往還などの概況を記した後、昭和三〇年頃と現在の主要道路沿いの家並みの移り変わりを聞き書きを中心にとめました。

写真は、昭和二年に永田地区の県道沿いに建てられた県道「原町松前線」の改修記念碑です。「金壺千圓也 中村久蔵」「金九百七拾六圓也外七十六名」と刻まれています。

発刊にあたって

皆様のご協力をいただき、創刊以来の先人の思いをつないで『北伊予の伝承』も第一二集を数えることとなりました。ようやく完成し、ここに地域の皆様にお届けできますことをうれしく存じます。

今回も、前集と同じく、柱を二本立てとしました。

一つ目は、「通った学校の思い出とくらし」をテーマに、戦前から現在までの北伊予校区の学校について語っていただきました。いつの時代も、学校は校区の中心であり人々の心のよりどころであります。今その記憶をたどり記録として残すことは喫緊の作業と考えたからであります。

二つ目は、「北伊予の幹線道路沿いの家並みの移り変わり」をテーマに、戦後の高度経済成長期から現在までの家並みの変化を聞き書きを中心にまとめました。作業を通して、現在の北伊予の家並みと人々のくらしが、この六〇年余の社会の進展に伴う幹線道路の変遷と深く関係してできたものということが見えてきました。

本誌が北伊予の皆様のお役に立てれば誠に幸いに存じます。

発刊にあたり、座談会や聞き書きに応じてご協力いただきました大勢の皆様、また貴重な情報の提供やご教示をいただきました校区の皆様、さらに終始献身的なご尽力をいただきました編集委員の皆様、心から厚くお礼を申し上げます。

平成二六年三月

松前町東公民館長

西坂 洋一

目

次

I 座談会 通った学校の思い出とくらし

一 戦前の学校とくらし	1
(一) 尋常小学校の頃から国民学校まで	2
(二) 国民学校の頃	6
二 戦後の学校とくらし	16
(一) 戦後の混乱期	17
(二) 高度経済成長期から現在まで	26

II 北伊予の幹線道路沿いの家並みの移り変わり

一 北伊予地区の主要道路について	35
二 各地区の家並みの移り変わり	
(一) 中川原	37
(二) 徳丸	41
(三) 出作	44
(四) 神崎	47
(五) 鶴吉	51
(六) 永田	54
(七) 東古泉	57
(八) 横田	60
(九) 大溝	63
編集委員	66

I 座談会 通った学校の思い出とくらし

長い伝統に育まれ北伊予の学校に通った懐かしい日々の思い出と当時のくらしを絡^かませて、激動の昭和を生き抜いた各地区の有志の皆さんにお話いただくため、酷暑の七月一四日、東公民館で座談会を行いました。「戦前の学校とくらし」では尋常小学校から国民学校までを一〇名の方に、「戦後の学校とくらし」では、戦後の復興と六・三制による新制学校への移行や中学の分離など一二名の方に語っていただき、二つのグループに分かれて実施したものをまとめたものです。

一 戦前の学校とくらし

出席者の皆様

1	鶴吉	10	大溝
2	出作	9	横田
3	永田	8	出作
4	神崎	7	中川原
5	鶴吉	6	東古泉
6	相原隆志	5	松田清太郎
7	合田ミユキ	4	高須賀郁夫
8	中村文雄	3	山本勅子
9	土居和臣	2	野垣マサノ
10	大政邦和	1	高市賢一
	司会		大政邦和
	記録		仙波康宏
			水口勉
			澤田忠夫



座談会 あっという間の3時間



司会の二人

このグループでは、戦前、北伊予尋常高等小学校や北伊予国民学校へ通った思い出を中心に、当時のくらしについて語っていただきました。その後、不明な部分は当時が分かる方に体験を聞いたり、資料で調べたりして書き加え、分かり易くしましたのでご了承ください。



座談会出席の皆様 (敬称略)

仙波 高市 大政 澤田 水口 山本 (後列)
松田 合田 相原 野垣 濟川 土居 中村 高須賀 (前列)

(一) 尋常小学校の頃から国民学校まで

はじめに尋常高等小学校へ通った頃の思い出を先輩から順に語っていただきます。



中村 私は永田でございますが、今頃は五、六人の少人数で登校していますが、昔は全員が揃うまで待ちよって、揃った段階で出発しておりました。永田の集合場所は県道沿いの砂利置き場で、そこで、当日休む人は、「だれ先生に風邪で休むとか言つといてくれ」と。その当時は一番確かな伝達方法でした。全員が揃うまで待つておりました。



濟川 私が入学したのは、昭和五年四月、国鉄線(Ⅱ今のJR予讃線)が郡中(伊予市)まで開通した年です。

支那事変の出征兵士見送りのために北伊予駅に集合し、旗を振って見送ったのを覚えております。



合田 駅
へ何度か見送りに行くと、児童代表も言葉

述べていました。そのようなことも満州事変や支那事変から、戦勝ある頃までで、次第に途絶えていきました。



写真1 出征兵士の出発



山本 駅が近いので自主的に何度か駅のホームで小旗を振って見送りました。

野垣 私は駅が遠いので駅で見送らずに、横田で兵士を見送りました。

合田 小学校の一番の思い出は、戦死した出征兵士の村葬が講堂で行われ、低学年の子どもも、運動場で遊ぶのに声を出せず、ひっそり遊んだことです。



相原 北伊予駅で、時には南伊予と競争みたに見送っていたこともありました。満州開拓団(Ⅱ一九三八年から一九四二年の間に開かれた満州国への農業従事者を中心とした

移民団)への見送りの場合も含めて出ていました。

中村 最初の村葬は、中川原の加藤さんでした。私が小学校六年の時です。戦争が始まってすぐ戦死したんですね。今でも村葬のことは覚えております。その後二名の方と一緒に弔ったこともありました。

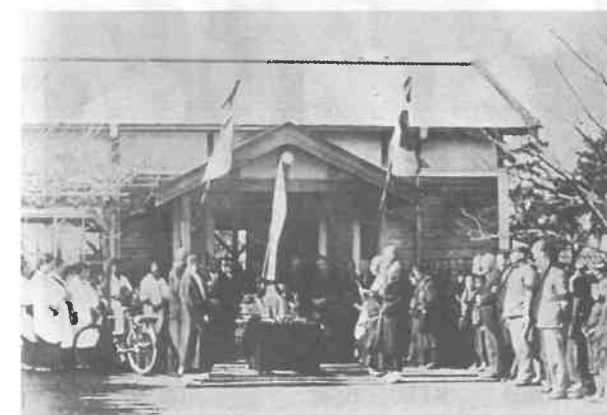


写真2 英霊を迎える(北伊予駅)



野垣 村葬には出ませんでした。英霊が帰った時には学校前の道路に並んでお迎えしました。

出征、戦死に関する記憶は強烈だったので、村葬の参列者はどんな方々でしたか。

中村 僧侶が四・五名、高学年児童、来賓、役場関係三役の方が来ておったと思います。当時、楽器を演奏した人によると、高学年児童も参加し、晴光院以外の僧侶もいたようです。

小学校で他の思い出は、六年生の時に日中戦争で南京陥落（「南京を攻め落とす」のお祝いに提灯行列をしたことです。

合田 戦争も始めのうちはどうん勝ってしましてね。旗行列でみんなと集落を歩いた記憶があります。

紀元二千六百年（「昭和十五年」）の祝賀の時も、昼は村内を児童の吹奏楽を先頭に旗行列をし、夜は提灯行列をしました。

児童の活動の様子について

土居 私は済川さんより一級下で昭和六年に入学したんですが、今思い出すのは、通学は足袋や靴下を履いてはいけなかった。素足に運動靴か草履です。



体操は真冬でも裸足じゃな
いとイケな
かった。校長
先生の教育方



写真4 小学校運動場での奉祝記念



写真3 講堂で行われた村葬

針だったと思いますが、その点で厳しかったですね。秋の運動会も靴を履いたらいかなかった。この日はみんな裸足で登校しました。

済川 だから運動場の石拾いをたびたび行いました。

松田 私も靴下や足袋は履かなかったですね。

高市 私は裸足で通学した記憶はなく、ちり草履でした。

土居 冬でも靴下や足袋を履いて教室へ上がれなかったが、聞くところによると、高等科にな

ると学校でちり草履のつくり方を教えてもらい、自分で作ったものは上履きとして認めてくれたそうです。

当時の服装や持ち物、弁当などについてお聞きします。

合田 小学校の時に、遠方の子はお弁当を持ってくるんです。近くの子は家に帰って食べてきました。一・三人弁当も持たず、家にも帰らず運動場で遊んでいた子がいました。

土居 我々の時代は、遠足の弁当はおにぎりか日の丸弁当（「飯に梅干しを入れた弁当」）じゃないといけなかった。検査していいですよ。これは貧しい家の子への思いやりだったと思います。運動会でも親と一緒に弁当食べるようなことは許されなかったですよ。

中村 話は変わりますが、一・二回経験があるんですが、同級生が、親が働いていたので子守の子どもを学校に連れておったのを覚えております。就学率を上げるために認めていました。

合田 私のときも二人位おりました。



写真5 伊賀上校長と教職員（昭和4年～16年）



写真6 昭和10年度尋常科卒業生(男組)



写真7 昭和10年度尋常科卒業生(女組)

松田 私の経験では、当時子どもがどの家庭も一〇人前後と多かったので、兄弟姉妹の持ち物を譲り受け、順次使っていました。

中村 私ら頃の通学の服装は、制服はないが、男子は衣料品店で購入できる学生服でした。女子は着物、セーラー服、毛糸で編んだ服にスカート。履物は素足に草履、晴雨兼用の下駄が多く、やつおれ(Ⅱ草履で底が六つぐらいに割れる履物)や靴(ゴム製)も使っていました。高等科になると地下足袋の子が多くなっていました。

済川 私は昭和一〇年度尋常科卒業生です。この記念写真で分かるように、男子は坊主頭に学生帽、黒の学生服でした。履物は下駄、靴、草履です。物が不足するようになって靴がズックに、ズックが下駄、草履というように変わっていききました。女子は写真で見ると、おかっぱ頭、セーラー服、着物、ジャケット、スーツ、タイトスカートなどいろいろです。履物は素足に草履で、雨や雪の時は下駄履きでした。

防寒用の足袋・手袋・マフラーはありません。ランドセルは珍しく、肩掛けカバンや手提げ袋・風呂敷に入れていました。和風と洋風とが混ざって、低学年から高学年になるにつれて変わっていったように思います。自由でした。冬は寒さよけに、でんち(Ⅱそでのない綿入れの上着)、はんでん(Ⅱ短い上着でハッピのようなもの)、掻巻(Ⅱ小さい夜着で綿の薄いもの)なんかを羽織っていました。家に帰るとすぐに着物などの普段着に着替えていました。運動会用に買った服装は秋祭りにも着ていましたね。

相原 私は昭和一〇年に北伊予尋常高等小学校に入学し、北伊予国民学校を卒業しました。皆さん、このマーク知りませんか、帽章です。戦争中は金属が不足して、カラツ(磁器)製のボタンを見つけたことがありました。公共物や私有の金属類は供出されて、物資の配給制が強化されましたね。

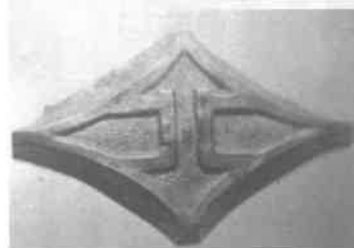


写真8 尋常高等小学校帽章

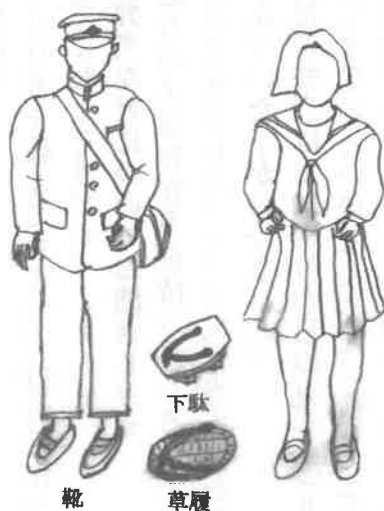


図1 戦前の学童姿



高市 戦争が終わって六・三制の新制中学一年だった時に、北伊予中学校のマークを決めることになりました。先生が三つ、四つサンプルを持ってきて「どれがいいか決めなさい。」と言われ、当時の一、二年生の選ばれた生徒によつて決めたのを覚えています。

男女別行動の場面、体操の時間、着替えなどについて

中村 戦前の遊びは、遠足で鶴吉にある草田池へ行ったり、学校でフットボールをしたり、夏には北伊予駅西の新泉へ泳ぎに行ったりしました。

学校からは新川（＝伊予市にある海水浴場）へ年一回行き楽しみでした。飛び込み台や遊具も多くあり、面白かったですね。腸チフスが流行したときは砥部にある赤坂泉へ行きました。

北伊予駅の西にあった三つの泉、新泉、徳利泉、氷泉（＝正しくは幸治泉、三つの泉で最も冷たかった。）は多くの子どもらの絶好の泳ぎ場でしたね。

山本 体操の時間は、上は白の半そでシャツ、下はブルーマだつた。昔プールなんかはなかったので、学校から帰ると氷泉へ泳ぎに行きました。その当時水着はなく、小さい頃はパンツ、シミーズ、大きくなるとワンピースのようなあり合わせの衣類で間に合わせていました。

合田 体操の時間は、上着を脱いだ程度で体操服に着替えた記憶はないんです。水泳はパンツです。徳丸に同級生が一四、五人位いたので、約束時間に集合して遊んでおりました。

山本 私ら出作の子は氷泉でよく泳ぎました。神崎、鶴吉などの子も泳いでいました。

土居 私たちの学年一、二、三年生は雪組（男）、月組（女）、花組（男女）に、四年生から男組と女組に編制されました。男と女が学校で話すようなことはほとんどありませんでした。

お昼の休憩時間などについて

中村 私は弁当でしたが、学校の近くの神崎、鶴吉、出作の一部の子は、昼休み家へ食べに帰って五時間目に遅れないように来ていました。

土居 尋常科も高学年になると午後授業があるので、持ってきた弁当を急いで食べて休憩時間は運動場へ出て、陣取りなどをしました。陣取りはセンダンの木を陣地にして行ったものです。次の勉強が始まるまで我を忘れて楽しみました。

冬晴れた日には、一個のボールを奪い合って高くけり上げたり、遠くへけり飛ばしたり、また高等科の子と一緒にフットボールやバスケットボールもしました。雨の日には、廊下で「つばえ」という取っ組み合いを楽しみました。女子はお手玉やおはじき、まりつき……とか。



高須賀 私は中川原ですから、学校から帰ると重信川（中川原橋付近の広場）に集合し、上級生の指示で敵・味方に分けられました。配置・階級役割・仕事分担等を決めて「戦争ごっこ（陣取りゲーム）」もやっていたです。

他にどんな思い出がありましたか。

中村 苗代でメイ虫（＝幼虫のときイネの茎を食べて大打撃を与える害虫）が産卵した稲の葉を一〇〇枚届けると、一枚の抽選券がもらえ、後で農協の品評会場で賞品が何かと引き換えていました。学校でも子どもにメイ虫とりを奨励していました。麦や稲の落ち穂拾いもししていました。

児童の図画作品が綴られて、校区内を徳丸から東古泉の順に各家庭を回覧してくれていたこともありました。

仙波さん、お父さん（仙波貢さん 大正四年尋常科卒）が回顧録に述べられていた北伊予尋常小学校の移転当時の様子を伝えてくださいますか。

仙波 父は、「明治四四年、伊予神社西の北伊予尋常高等小学校に入学した。大正二年三月、現在の場所に校舎が新築・移転し、先生と児童はそれぞれ自分の机、椅子などを持ち運び新校舎に移った。新校舎は当時県下でも誇る立派なもので教室も広く、運動場も東側に広々として旧校舎と全く比べものにならないかった。」と、明治後期から大正前期頃の自分の学校生活について述べています。



写真9 移転直後の北伊予尋常高等小学校

(二) 国民学校の頃

昭和に入ると軍事色が強まり、昭和六(一九三二)年に満州事変が起き、昭和一二年の日中戦争に発展しました。その後、昭和一六年に太平洋戦争に突入し、昭和二〇年までの一五年間にわたり戦争が続きました。

明治以来続いてきた尋常小学校、尋常高等小学校は、昭和一九(一九四二)年の「国民学校令」によって国民学校となり、初等科六年、高等科二年で義務教育八年となりました。

皆様はほとんどこの戦争を体験されました。

国民学校の頃の体験や思い出をお聞かせください。

松田 私頃は、戦争が敗戦に向かっていた時代でしたので、軍事教育が多かったように

思います。私は高等科一年時に予科練(「軍隊に入る前の予備隊」)に行きたかったのですが、親父に内緒で印鑑を押した覚えがあります。幸いに終戦になりましたが、一体何になろうかと戸惑いがありました。今考えてみると、「戦争体験をしてない」ということは、いい時代に生きているなあ。」と思います。先輩方は戦地へ行き大勢戦死しています。我々同級生には戦死者はおりません。それが一番の救いです。

空襲警報(「飛行機による攻撃の危険の前もっての知らせ」)が発令されると校舎外へ避難したり、皆が分団ごとに集まって、上級生に連れられて急いで帰ったりしてありました。小学校から東古泉まで三時あり、体の弱い子は大変でした。

野垣 空襲があるので避難訓練をしていました。授業中に警報のサイレンを合図に頭と耳を押さえて机の下にもぐる空襲の避難訓練を何度かやらされました。

高須賀 中川原の

通学は、地区が広

いたため国鉄(JR)

線路より「上」の通

学路を通る生徒と

「下」の通学路を通

る生徒の二班に分

かれておりました。

また、学校にいて

警報が出たときは

防空頭巾(「戦時中、空襲の際に頭部から肩を守るために被つ

た綿入れの頭巾)を被って帰っていました。このときグラマ

ン(「攻撃用飛行機」)の乗員の顔が分かるほど低空飛行で爆音を

あげて飛んできた記憶があります。それは、鉄橋めがけて攻撃してきたもので、飛行機が上空にいるときは動くと攻撃対象に



写真10 空襲警報発令中の看板

され機関砲で狙われるので、子どもらは線路から離れた藁ぐろ（「イネ収穫後の藁束を何段にも積み上げたもの」）や民家の軒下伝いに身を潜めながら帰宅しました。中川原以外でも防空頭巾を肩に掛けたり、カバンに入れたりしていつも携帯して通学していました。

私も、大溝の女の子が帰宅途中に空襲を避けて自宅近くの川へ飛び込んだり、鶴吉辺りで学校から土手や川沿いに身を寄せながら帰ったという話を聞いたことがありました。

山本 私は国民学校を終戦の年には卒業していましたが、そういう体験はありませんでした。

松田 戦争中ですから、空襲から鉄道や子どもたちを守るために、昭和二〇年には三〇人、四〇人の兵隊さんが学校を宿舎にしていました。予讃本線の守備部隊（青木部隊）松山連隊が運動場の北の校舎にとどまって、防空壕（「空襲から身を守るために地下に造った避難所」）も作っておりました。私たちはそのマツの丸太を大谷池近くにある村有林から運んでおりました。

野垣 大谷池近くから私ら女子も二人一組で運びました。

高市 中学三年生の時だったと思うんですが、村有林で、大谷池の現在の森林公園の南斜面に植林した記憶があるんです。

松田 昭和一九年の夏、私たちは塩屋の海岸で歩兵が行う射撃練習のようなことをしました。一級上の高二男子は新川へ海洋訓練に参加して海兵用の訓練でしうか、実際に手旗振りや二〇人乗りくらいのカッター漕ぎをしたそうです。

村有林以外に実習地があり、昭和一八年には運動場の空地にも、初等科六年以上で大豆の種まきをした記録がありますね。

松田 矢取川あたりまで開墾に行きました。神崎の山王原実習畑あたりから国鉄北伊予駅前付近の竹やぶを開墾してサツマイモを植えました。神崎の、元養護老人ホーム「和楽園」があったところにも実習田がありました。

鶴吉の長尾谷川の土手にも、それから女子は今の福德泉公園辺りを開墾して食用大豆の種まきをしたそうですね。

水口正三さん（昭和二〇年卒）はそのことを、昭和六〇年発行『北伊予小学校百年のあゆみ』の中で、「食糧不足のため運動場の半分くらいを開墾してサツマイモを植えて世話をした。」と述べています。

野垣 勉強よりも勤労作業ですね、食べるものがないから、広い運動場にサツマイモを植えており、それを食べました。

空襲の訓練や物資不足の中で「満足に勉強できる状況ではなかった」と、聞いてきましたが……。

野垣 あまり授業にならなかったですね。米と麦の収穫期には、生徒が田んぼで落穂拾いをして学校に持っていきました。拾った量をグラフにされて競争していました。

松田 イネや麦の落ち穂拾いはずっと恒例になっていたように、私もやりました。

昭和一八年の重信川の大氾濫により中川原の住民が小学校へ避難されました。道路復旧等に子どもたちは参加したのでしうか。

高須賀 中川原では線路の枕木が流されておりました。その時、最初はお寺に二週間ほどいたんですが、だめということで小学校の講堂、農協の倉庫や空き部屋へ、四百人位が避難しました。田畑の小屋やニワトリ小屋が流されて、民家は床上まで浸水しました。子どもの水難事故はなかったと思います。

高市 その当時、田が流されて、イネの苗がないので小学校より下（「小学校より西」）の人は、はぎ植え（「イネの苗を余分に植えておく。」）していたのを引き抜いて持って行ったのを覚えております。

高須賀 イネの苗が流されたのもう一度田植えしたのです。

中村 田が流されたので農業ができず、満州（「現在の中国東北

部)開拓団に参加していたようにも聞きますが、出た家はなかったんですか。

高須賀 一人ありました。戦後は引き揚げましたが。

松田 高等科の子どもが中心に、学校へ行かずに押し寄せた土砂の取り除けに行ったんです。私はトロツコ(二本のレール上を走る箱型の運搬用台車)を押しました。

野垣 小三だったので手伝いを兼ねて石拾いして帰りました。授業はなくて先生の引率でした。

合田 徳丸生まれですが、その当時は徳丸の農家はスイカを植えておりまして、そのスイカが流されて大変でした。拾った人は何人もいたそうです。

松田 今の「エミフルMASAKI」あたりまでスイカのつるが流れておりました。

鶴吉で国民学校経験者に尋ねてみると、次のように言っていました。

大政和高さん(昭和二〇年高等科修了)は、「上本多(中川原の一番上にある本多家の家号)へ行き、床下の泥を肥料袋に入れて運び出し、にぎりめしをいただいたが、その帰り空腹が我慢できずに流れていたそのスイカを食べた。」そうです。また鶴吉の大政景子さん(昭和二〇年修了)は、「帰る途中のどの渇きに耐え切れず、川の水を飲んでしのいだ。」そうです。

中村 私が小学四年の時、東北が凶作(作物のできが悪い)なので応援するということで、農家は、米を三合か五合入る袋をもらって援助米を出しました。

昭和一八年前後、教員の様子はどうなっていたか伺います。

相原 先生の出征はあまりなかったように思いますが、女性の代用教員が授業にあたっていたように思います。

校庭で見ていた二宮金次郎の銅像や儀式、教育勅語についてお聞かせください。

二宮金次郎について

松田 昭和二四年当時ありましたが焼き物でした。二宮金次郎先生の銅像は戦時中に壊して供出されて、我々の当時のものは焼き物でした。正門入った右手の二宮金次郎像に軽く頭を下げて通り過ぎました。

儀式について

済川 四方拝(一月一日)、紀元節、天皇節(天皇誕生日)は式典のために登校し、真つ先に講堂東の奉安殿(御真影や教育勅語をおさめた施設)から校長先生か教頭先生がうやうやしく御真影(天皇、皇后両陛下の写真)を捧げ持つて運び出し、講堂正面に安置して式が始まりました。式の内容は、まず御真影に最敬礼、続いて君が代斉唱、式によっては校長の教育勅語の奉読、祝祭日に応じた内容の校長訓話、オルガン伴奏による祝祭日の唱歌斉唱です。

松田 御真影と教育勅語を持ち出すのは見ましたが、奉安殿や式の最中には、燕尾服(黒の式典用礼服)と最高の靴で着飾った校長先生の姿は下を向いている児童には見えませんでした。

国民学校における体操の時間はどうでしたか。

合田 私たち女子は学校でなぎなたを振っておりました。また体操・幅跳び・竹登りなどをしました。高学年になると跳箱は跳べるようになるまで練習しました。ドッジボールもありました。

山本 私の頃は、跳箱鉄棒竹登りなどをしました。必死でやっていて大方の子はできていたように思います。できない子は放課後などに練習していました。

松田 剣道はやりましたが、運動会の経験はなかったですね。

相原 私は柔道を習い、運動会で柔道の「型」をやりました。学年がちがうと武道の時間に剣道があつて木刀を振るけいこをしたように、仙波先生の指導は厳しかったそうです。

松田 棍棒（棍棒）体操で使う短い三〇センチ位の棒（棍棒）投げをしました。棍棒を的（め）がけて投げておりました。何のために使うかというと、手りゆう弾（手で投げる小型の爆弾）をできるだけ棒から外れないように遠くへ投げる予備練習でした。一貫した戦時教育だったですね。「いざというときには『これをもって死ねよ。』ということしてくれるんじゃない」と聞きました。そのためにできるだけ遠くへ飛ばして相手に被害を与えようと思いました。軍の方針が、逃げないでお国や天皇のために命をささげることが教える教育でもあったのですね。

山本 高等科の体操の時間では、先のとがった竹やりで藁人形を突く、竹やり訓練をしていました。

高等科男子児童は、あしなか（足裏の半分ぐらいで、鼻緒を前で結んだわら草履）を履いて訓練や体操をしたそうですね。私が聞いた話ですが、鼻緒が前の端に付いているので親指などが草履からはみ出て指を痛めるし、素足では稲わらに足の油気を奪われてアカギレはできるし、鼻緒がよく切れて困ったそうですね。

野垣 棍棒のような物で、棒や藁束を叩いて帰る訓練をしました。

―相撲大会などについて

松田 義農祭（義農作兵衛の功績や精神を世間に広めるために行う祭り）で、毎年四月二五日に行われる（の）時にはしております。



写真11 あしなか

したが、戦争が激しくなったときはなくなっておりました。

それから寒い時には上半身裸になつて乾布摩擦（乾いた布で肌をこすること）を運動場でやらすんですから。

合田 女子もしております。上は白の半そでシャツ、下はブルーマの体操服に着替えてしてました。

高市 私の当時は、体操の時間に雨が降って運動場が使えないときには、

教室で必ず先生が本を読んでくれました。それが楽しみでした。内容は忘れましたが、何か物語を読んでもくれました。

松田 私は昭和一三年北伊予尋常高等小学校に入学し尋常科三年まで在籍しました。途中、昭和一六年に北伊予国民学校に改称されたので国民学校の第四学年になりました。いまだに忘れません。昭和一八年度に国民学校初等科を卒業し、翌年国民学校高等科に入学して二〇年度に卒業しました（図2・3参照）。

山本 私は尋常高等小学校に入学して、卒業は国民学校でした。



写真12 全校行間体操（昭和13年頃）

国民学校では、なぎなたをするとか、役に立つようなことをたびたびしてありました。

卒業後は、県立松山城北高等女学校へ入学しました。途中で六・三制になって、松山北高等学校へ二年生まで通っていましたが、昭和二五年校區制が敷かれて、最後の一年は松山南高等学校に通って卒業しました。女学校三・四年生頃は、学校の指示で出征兵士の家で農作業やいろいろな手伝いをして、あまり勉強することはできませんでした。

卒業時の児童の服装にも変化がみられますね。
 済川 前に紹介した一〇年度卒業写真で見るとおり、男子は学生服で揃っていたのに、一八年度卒業写真で見るとずいぶん変わっています。

野垣 制度の境目に入學したから、教科書とかい

北伊豫尋常高等小学校									
校長	伊賀上季	尋一	弓達隆成	尋二	乃木良	尋三	夏井	尋四	尋五
尋六	高一	高二							

図2 尋常高等小学校3年生まで

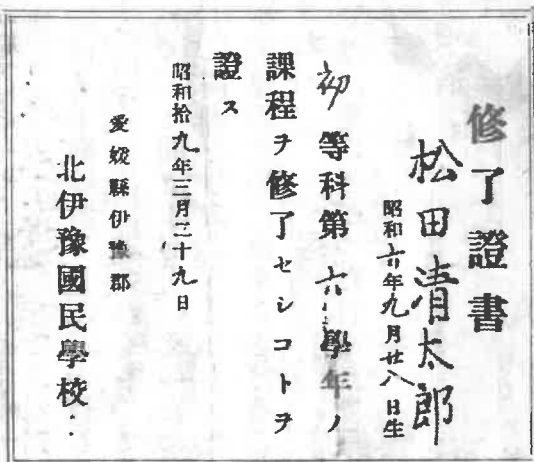


図3 初等科4～6年修了まで



写真13 昭和18年度国民学校(初等科男子)卒業生

ろいろなものが変わりました。教科書は譲り受けて使いました。歴史の本などは、変わった部分を、先生の指示によって自分たちで黒く塗り潰したり書き込んだりしました。
 言うことすること何でもかんでも「お国のため」であり「欲しがりません、勝つまでは。」と教えられて我慢してきました。

夜は電灯を消して真つ暗の時もありました。二〇年八月一日の終戦で、今まで教えられたことが打ち消され、急に新しい方向へ進むようになりました。

組分けは、松組(男組)・竹組(女組)・梅組(男女混合)でした。学芸会は国策に沿わないので三年生まででした。運動会もありませんでした。

勤労体験の思い出について

高市 小学校当時、入口が現在の南門になっている所から出入りしておりました。校舎は東西に四、五棟あり、その東には南北に大きなセンダンの木が植わっていました。東門付近の運動場には農舎があつて中学生が牛の餌やりの当番をしておりました。東門を出て東へ三〇〇位の所に、学校の実習畑「山王原」があり、学校の便所の人糞を肥タゴに汲み取って二人一組で運ぶ勤労体験をよくしました。

前に聞いた大政和さんは、向井先生に指名されて学校北の実習田を牛で鋤いた(「耕した」そうです。

合田 女子は植え付けや収穫に参加していたように思います。

野垣 履物は下駄や藁で編んだ草履に緋のモンペ(「はかまに似ていて足首を絞った動きや



写真14 山王原の開墾作業(昭和10年)

すいズボン)姿で登校しました。

校舎や施設等の移り変わりについてお尋ねします。昭和四年に二階部分が増築されていますね。

土居 昔から二階はありました。もらった図面を

見ると教室の数が足らんように思うんです。一番北側が一・二・三年、雪・月・花の三組、九教室があつたのに、これ見ると八つでしょ。それで降変わったんじゃないかと思っています。

松田 私は変わったように思いませんが。

土居 生徒数は私たちの学年は男子六〇人、女子七〇数名の百三〇数人だったんじゃないかと思っています。それで計算してみますと、尋常科約八百人、高等科約二百人、合計一千人位になりますね。

一つの敷地内に尋常科と高等科があつて、双方の行き来はありましたか。

松田 我々の時は両方義務教育で、校長も一人で兼務していました。高二までは一緒です。尋常六年で終わる者と高等科へ行く者に分かれていました。

日露戦争後、勝利を記念して、陸軍記念日(三月一〇日、戦後廃止)、海軍記念日(五月二七日、戦後廃止)が設けられていて、陸軍記念日には儀式後に、学校の行事として、軍旗取りを「上」と「下」に分かれてやっておりました。先に軍旗を取った方が勝ちです。

国民学校当時は、男子と女子が話すようなことは。

松田 男女混成組では話すことは当たり前です。我々の時、学



図4 防空頭巾とモンペ姿

級は一年生が男女混合で松・竹・梅に分かれ、二年生になると、男組と女組に分かれ、三年生で再び男女混合になっていました。戦争になると再度男女別になり、一組六二名で一人の先生に教えてもらい、それは大変でしたね。

物資不足の時、授業、衣服、学用品等はどんなにしていたのでしょうか。

中村 前の子がきれいに使っておれば譲り受けて使っていました。

相原 習字の時は古新聞紙だったですね。

松田 今のようないたくなことはしてなかったですね。習字の時間には、古新聞紙に何回も練習して、真っ黒になるまで使っていました。最後に清書して名前を書きました。

野垣 鉛筆や帳面も兄弟の古いものをお譲りされていました。また文字が書ける紙を綴じ合わせて帳面に代用したりもしました。

私は国民学校の経験がないので特徴を調べてみました。尋常高等小学校まで教科は、修身（Ⅱ戦前の学校教育の教科の一つ。今の道徳に近い）・国語（読方・書方・綴方）算術・国史・地理・理科・図画・唱歌・体操・手工（Ⅱ工作）でした。「国民学校令」によって、皇国民練成の指導が強まり、身体を鍛える指導、記憶中心から応用、郷土を学ぶ学習が重視されています。教科は国民科・理数科・体練科・芸能科・実業科にまとめられています。

修身など学習についての思い出はありますか。

松田 修身は国民学校になって国民科に入っていますね。一番大事だったのは修身です。教育勅語は誰もが暗記しました。先生に指名されて言わされていました。

濟川 修身と言えば二宮金次郎を思い出します。親を大切に、兄弟仲良する。よく手伝いをし、毎晩本を読む。それに博愛ナ



図5 尋常高等小学校の教育手帳

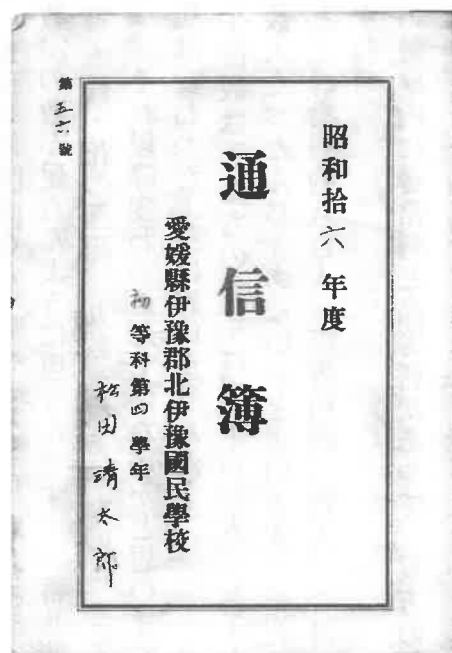


図6 国民学校初等科の通信簿

イチンゲールなど思い出します。

制度上、国民学校では体練科に武道ができて剣道や柔道をするようになっていても、現場では必ずしもそうでなかったかもしれませぬ。

松田 学業優等や精勤のゴム印を押してもらったことをめざしてがんばってきました。

高市 教科書は学校から「これです。」と言われたら、それを買っておりました。教科書の選択余地はなかったですね。

野垣 それまで着ていたお譲りのセーラー服やスカートはしばらくしてモンペ姿に変わりました。

履物の靴は配給制で、一組にほんの一、二足くらいあてで、手に入らず、大抵はちり草履か下駄でした。持ち物はそれぞれいろいろで、風呂敷、手提げ袋、粗末なカバンなどに入れました。またその当時の貧しい家庭には、役場から衣類、学用品なんか支給されておりました。昼は麦飯弁当が主で、ご飯にはダイズやエンドウなどを入れることがありました。

残された時間も少なくなりましたが、皆様からご自由な発言をお願いします。

高須賀 一九年には学童疎開（児童らが空襲に備えて一時地方に分散する）で大阪市内桜島小学校の五、六年生が二五人位来ておりましたね。



写真15 昭和20年度国民学校（高等科男子）卒業生

修身がなくなったこと、本を黒く塗ってそこは読まないように言われたこと、急には自分の態度が変われなかったです。一〇月の運動会は村を挙げて盛大に行われました。

学校外での遊びについて

済川 昔は自然が豊富にあつて、川にいる虫や魚・貝類などを捕ったものです。

土居 夏休みに毎日のように出かけたのが泉や川への水泳。各部落の泉はどこもカッパたちでにぎわっていました。寒い頃はたこあげ、こま回し、チャンバラごっこなどです。暖かくなると軟らかいボールを使いミットなどはない野球、人数が少なければ一塁だけにしたりして楽しみました。個人ではドジョウすくい、川魚つり、竹馬などたくさんさんの遊びをしました。

松田 今は子どもが川で遊んだりしていませんね。昔は川に入って網で魚を捕り、シジミが食べたいと思えば取り、泳ぐうと思えば泉へ行って泳いでいた。何でもできよった。今は泉へ行って泳ぎよったら怒られる。そういう時代ですね。

当時は先輩連中が一緒にいて外でも安全が保てました。今は家の中で、一人でテレビやゲームで楽しむなど、遊びもずいぶん変わりましたね。

仙波 昔は「いじめ」はなかった。地域に先輩がいるから小さい子どもがいじめられていたら、先輩が間に入って収めていた。今は地域の連携が薄いから陰湿ないじめが横行するようになったんですね。地域みんなが集まって遊ぶのは大事なことですけれども。地域ごとに遊園地を造っているけれども子どもが遊んでいないんですよ。草が生えてそうじが大変だと聞きます。

皆様の地域行事はどうでしたか。

土居 地域の年中行事があつて、三月は桃の節句、四月はひな祭りとおなぐさみ、春祭りの奉納相撲、五月は端午の節句、七

月は夏越し、八月は七夕や盆踊り、一〇月は秋祭りの高張提灯・獅子舞・みこし、十一月は亥の子など、どれも楽しみでした。

最近では相撲、亥の子など地域行事に参加しない子が見られるようになりましたね。好みや価値観が多様化し、スポーツ少年団活動等と重なったりして参加できないことが多くなりましたね。

済川 亥の子などの行事が衰退してきている。

高市 昔お菓子といったら、お正月にかきもちとあられを作ったらそれが一年中おやつだったですね。それから、こや豆（＝ソラマメを乾燥して炒ったもの）、それと焼き米（＝水に浸した粳種子を炒って精米した米）は学校へ持ってきて食べていましたね。

松田 農家の人が焼き米をつくりよったですね。この間までの食文化ですね。かきもちを作ったとか、こや豆を作ったとかいうことが消えていつてしまっているように思えます。そんなことも古老に聞いて、昔の食文化も残しておいたらいいんじゃないかと思いますね。

※座談会後に聞き加えたり、資料を入れたりしたもの

（注1）補習授業の様子 土居 旧制中学校、女学校への受験競争が激しく、六年生になると男組では六〇人のうち一割くらいの希望者に対して補習授業が行われました。科目は国語・算術・理科・国史・地理です。補習用の教材を使用して、毎日放課後、学級担任から指導を受けていました。参加者は楽しんでやりました。少人数の集まりで、この時は先生との距離も縮まったように感じました。

（注2）修学旅行の思い出 水本清子さん（昭和一五年小卒）は、昭和六〇年発行『北伊予小学校百年のあゆみ』『六年間の思い出』の中で、「六年生の修学旅行で屋島や栗林公園へ行って、はじめて友だちと一緒に汽車の旅、大勢で宿に泊まりうれしくて夜遅くまで騒いだ。」と記しています。

（注3）済川裕さんの持ち物や思い出 男物・女物の下駄、高下駄、あしなか、わらじ、やつおれ、夏休み帳、算術や理科学習帳類

忘れられない先生の一人に、人格者の長岡稲次郎先生がいます。先生は私が一二学年の学級担任のとき、当時は家庭訪問などなかったのに、私が風邪で学校を休んでいるとわざわざ家へ見舞ってくれました。写真の花瓶は私が一二学年頃教室の柱掛け用にとって行って花を生けていたものです。進級時に返してくれた懐かしい物で今まで残していました。



写真16 思い出の花瓶
（済川裕さん提供）

このように卒業写真を見ていると、先生の名前や特徴、来賓の方々が浮かんできて懐かしいです。

私が見使用していた学習帳などをお見せします。

時間が参りましたので終わりますが、『北伊予の伝承』としてまとめる際には、もう一度聞き加えたり、資料を入れたりしたいと考えていますのでご協力をお願いします。

本日は暑い中をお越しいただき、貴重なお話をお伺いでき大変ありがとうございます。



写真18 学習帳(3年済川裕さん提供)

写真17 夏休み帳(3年済川裕さん提供)

授業時問表						曜
土	金	木	水	火	月	時
算	理	讀	修	算	修	一時
讀	算	算	讀	讀	算	二時
書	讀	書	算	書	讀	三時
體	綴	體	綴	理	珠	四時
玄	唱	曲	＊	體	書	五時
蘭	唱	＊	＊	＊	＊	六時
堂	＊	＊	＊	＊	＊	＊
五	八	六	六	三	三	＊

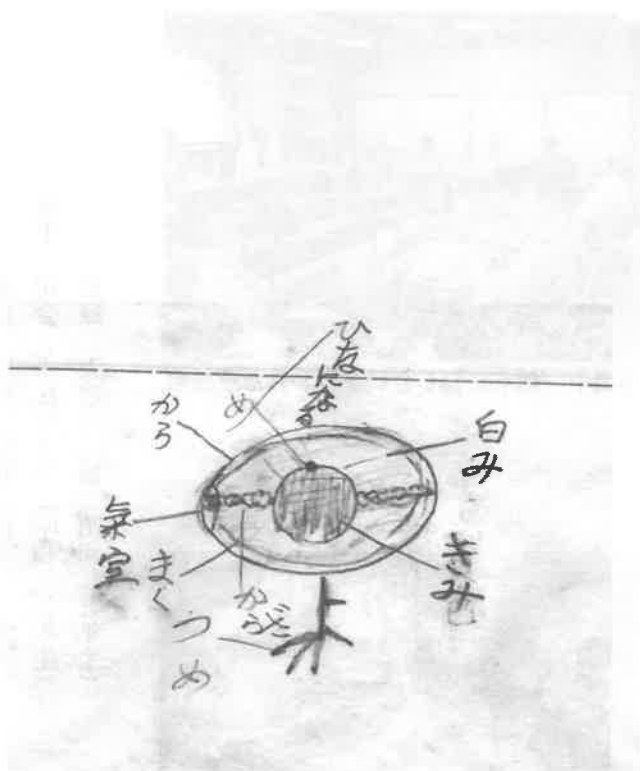


図8 時間表（4年済川要さん〈裕さんの実弟〉提供）

図7 理科学習帳(済川裕さん提供)

二 戦後の学校とくらし

このグループでは、終戦後、北伊予小・中学校へ通った思い出を中心に当時のくらしについて、一二名の方々からお話を伺いました。さらに司会・記録にあたる四名も座談会に加わりました。



座談会出席の皆様 (敬称略)

高市 萩野 藤田(常) 大政 久津那 米家 高石 小松 (後列)
稲垣 池内 岩崎 藤田(妙) 窪田 渡部 宇都宮 (前列)



写真1 熱心に話し合いが行われた座談会



写真2 司会と記録の方々

出席者の皆様

後半	前半	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
記録	司会	東古泉	鶴吉	大溝	永田	出作	神崎	横田	徳丸	東古泉	徳丸	神崎	中川原
大政	小松ヒトミ	萩野 雅久	久津那由紀	高市 裕二	中村 満夫	米家 郁美	池内 和男	岩崎 淳一	宇都宮房子	稲垣 昂規	渡部喜代隆	窪田 百子	藤田 妙美
博 (昭和二五年生)	(昭和二二年生)	(昭和二七年生)	(昭和三六年生)	(昭和三六年生)	(昭和二五年生)	(昭和二八年生)	(昭和二三年生)	(昭和二二年生)	(昭和二一年生)	(昭和一七年生)	(昭和一四年生)	(昭和一二年生)	(昭和一一年生)

(一) 戦後の混乱期

「戦後の学校とくらし」の座談会を開催します。終戦後から昭和三〇年代前半くらいまでの、いわゆる「混乱期の学校とくらし」を高石が司会を担当いたします。それ以降、いわゆる「高度経済成長期から現在まで」を小松が司会を担当します。

私たちのグループの座談会は、皆様が通われた懐かしい戦後の北伊予小学校、中学校での生活を中心に、その頃のくらしと絡ませて、お話いただきたいと思っています。

1 出席の皆様の自己紹介

座談会にご出席の皆様のお住いの地区名、お名前、生まれた年、小・中学校の卒業年次、思い出などを含んだ自己紹介を着席順でお願いします。



窪田 神崎です。国民学校へ入学したのは、戦争中の昭和一八年です。終戦になったのは三年生でした。小さいながら戦前・戦後を多少知っています。相当生活が苦しい中を今現在まで生きてきました。



藤田(妙) 中川原です。窪田さんと同級生で同じ状況の中で生活してきました。中学卒業は昭和二十七年三月です。母が学校に勤めていましたので、思い出しながらお話したいと思っています。



渡部 徳丸です。昭和一四年生まれ。入学は昭和二〇年四月で終戦の年だと思っています。途中病気で休学しましたので、一級下と昭和二十七年三月、七年かけて卒業しました。在職中、最後に母校の校長として勤めさせていただき



ましたので思い出がいっぱいあります。
稲垣 東古泉です。昭和一七年生まれです。

北伊予小学校入学は昭和二十四年四月です。当時の校長先生は西村喜代一先生でした。北伊予中学卒業は昭和三十三年三月で、校長先生は小西猛雄先生でした。



宇都宮 徳丸です。北伊予小学校入学は昭和二十八年、中学校卒業は昭和三十七年三月です。



岩崎 横田です。今日は欠席の予定でしたが、出席できたことをうれしく思っています。昭和二十二年生まれです。小学校入学は昭和二十九年、中学校卒業は昭和三十八年三月です。



池内 神崎です。小学校入学は昭和三〇年、中学校卒業は昭和三十九年三月です。私たちはちょうど高度成長期でいい時代でした。家が学校の近くでしたので思い出がいっぱいあります。



米家 出作です。昭和二八年生まれです。小学校入学は昭和三五年、中学卒業は昭和四四年です。池内さんよりも更にいい時代かと思っています。映画の「オールウェイズ二丁目の夕日」に重なるような時代でした。



高市 大溝です。昭和三六年生まれ。小学校入学は昭和四三年、中学校は五二年三月です。ずっとこちらに住んでいます。



久津那 鶴吉です。昭和三六年生まれ。ちょうど新しい中学校ができた時に引越などを経験しました。中学校分働當時の生徒です。
萩野 東古泉です。小学校入学は昭和四四年、



中学校卒業が昭和五三年三月です。中学一年生の時に新校舎に入りました。通学は三隣近くもあり大変でしたが、思い出はたくさんあります。

(中村さんは途中から参加されました。)

続いて、司会・記録の皆様も自己紹介をお願いします。

藤田(常) 中川原です。岩崎さんと同級で昭和二十二年生まれです。小学校卒業は昭和三四年度です。前回の『北伊予の伝承』のときも記録で参加いたしました。私も学校の様子やくらしなどを話したいと思います。

高石 神崎です。昭和一四年生まれです。小学校入学は終戦の翌年二年四月です。戦後ながら国民学校最後の入学です。その翌年に新制の小学校が始まりました。校長先生は出作の西村喜代一先生で、入学式の式辞で話された「らしく」という言葉を今も覚えています。終戦直後の混乱期の頃です。

小松 出作です。宇都宮さんと同級生で、昭和二十二年生まれです。小学校で覚えているのは、五年生の時に、校舎が新しくなったことと、校長先生が亡くなられたので学校葬が行われたことです。

それで、先日、この年に作られた小学校の『沿革誌』を見せていただきましたら、町田千代亀編集委員長さんの「あとがき」の中に、その原稿ができて印刷に回す直前のご逝去だったという文章がありました。読みながら胸が詰まりました。

大政 中川原です。昭和二五年一月生まれ。昭和三十一年小学校入学、中学校卒業は昭和四〇年三月です。昭和三九年秋に東京オリンピックがあり、その記憶が鮮明に残っており、学校には白黒テレビが各教室に置かれ、最終日のマラソンを見た記憶があります。

まず、国民学校は終戦後一年間存続しました。GHQ(連合

国軍総司令部)の命令で学制改革が行われ、昭和二十二年度から六・三制がスタートしました。このあたりのお話をお願いします。

次いで、同じくGHQの指導により日本国憲法が施行され、教育基本法が制定されました。当初はどんな状況だったのでしょうか、旧体制からうまく切り替わったのでしょうか。また終戦後は物資が欠乏し、衣食住に大変不自由をした時代でした。またGHQの命令により黒塗りの教科書が使われました。このあたりのお話をお願いします。

さらに、昭和二年四月、旧青年学校の校舎を利用して北伊予村立北伊予中学校が発足しました。その当時の様子などが分かればお話を伺いたいものです。

長く小・中学校が同じ敷地にあり、主な学校行事は一緒でしたが、中学校が昭和五〇年八月分離し、新校舎に移転しました。その当時のお話を経験された若い方々に話していただければと思います。

2 国民学校の頃

窪田 国民学校へ入学した時、自分の名前をハンカチに大きく書いてピンで留めて入学しました。字は全く覚えていませんでしたので入学して学校で習いました。小学校三年生の時、終戦になりました。軍事色の強い教科書で兵隊さんのことが書いてありましたが、戦後になったとたん、黒く塗りつぶされていきました。まだ新しい教科書ができていなかったのではないのでしょうか。

自分たちが黒く塗ったのではなく、先生方が複雑な気持ちで筆を持ったのだと思います。兵隊さんや戦争に関係するところは墨で塗りつぶされた教科書(注1)で教育を受けました。

渡部 私は終戦の年の昭和二〇年国民学校に入学しましたが、

北伊予小学校々舎平面図

昭和31年現在

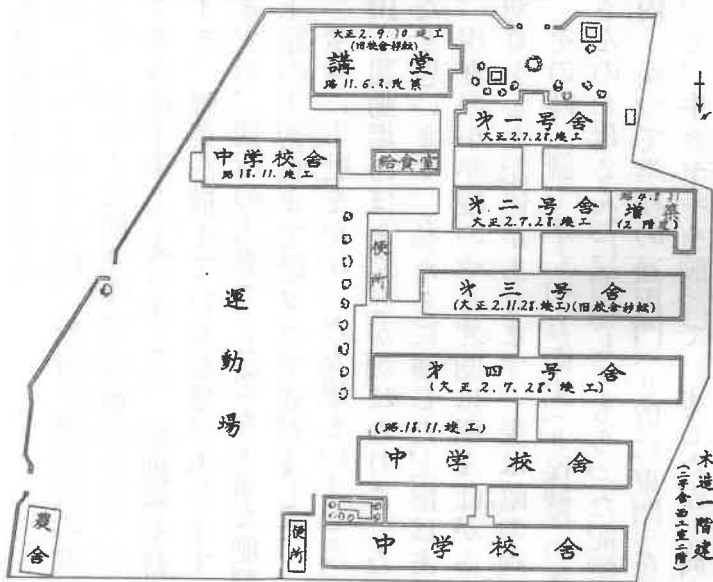


写真3 運動場から見た小学校校舎 (昭和20年代)

その時はまだきちんとした教科書でした。一年生のお盆の頃、飛行機から敗戦のビラがまかれ、それで終戦を知りました。戦前は、軍歌を歌いながら通学したり、なかなか勇ましい時代でした。どの家も子沢山で同級生は大勢いました。空襲警戒警報が出たとき、児童は運動場に集まりました。「飛行機が飛んできよるぞ。」の声で、地区別に上の六年生に引き連れられて帰りました。連れられて帰る途中、飛行機が飛んできて橋の下やソラマメ畑の中に隠れました。砂糖がなく甘いものに飢えていた時代ですので、ソラマメの花の蜜を吸ったりしました。その甘さは忘れられません。当時は食べることに精いっぱいでした。学校へは行っても、勉強をした

3 厳しい終戦直後の暮らし
戦後の厳しい食糧不足のため運動場をイモ畑にしたり、学校の東、線路手前の山王原の実習畑(注2)でもイモを栽培した記憶はありませんか。また田んぼは学校の周辺にありましたが、これに関連した思い出はありませんか。
藤田(妙) 線路の近くに学校の農場がありました。そこが山王原ですね。担任は向井先生でした。子どもたちを引率してイモや野菜を作っていました。運動をしている者は参加しませんでした。当時、スポーツ少年団や部活動はなくて、先生が選んだ者が運動をしていました。
稲垣 中学校時代、学校で牛を飼っていた記憶があります。山王原ではイモを植えました。
岩崎 あったのは覚えていますが、何回か行きましたが、水田は

という記憶はあまりありません。
一年生の中頃終戦になり、二年生から六・三制の教育になりました。物不足のため粗末な用紙にガリバン刷りの通知表がありました。一年生までは活字印刷の通常の通知表でした。担任の先生はお姉さんのような若い女の先生でした。若い男性は戦地にとられ少なかったようです。

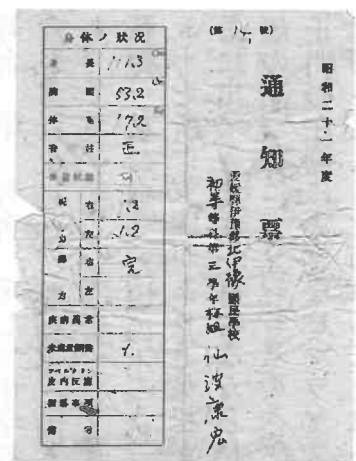


写真4 国民学校の通知票 (仙波康宏さん提供)

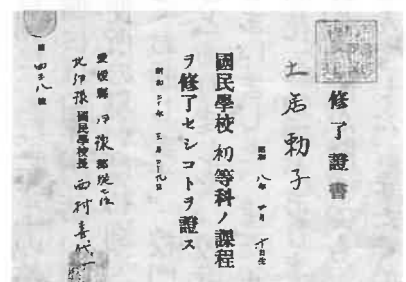


写真5 国民学校の修了証書 (山本勅子さん提供)

あまり記憶ありません。

渡部 私が一年生の頃、校舎と運動場の間にセンダンの大木があつて、木の下に防空壕（Ⅱ空襲のとき二〇から三〇人くらい避難できる地下室）がありました。運動場を耕した畑にはカボチャやイモ、野菜を植えていた記憶があります。当番制だったと思いますが、便所の人糞（Ⅱし尿）を大事な肥料として使うために、山王原の実習畑まで肥タゴで運びました。途中で紐（縄）が切れて、全身に下肥をかぶった友達もいました。

窪田 運動場のほとんどが畑になりましたが、耕したのは中学生だと思っています。私たちに耕した記憶はありません。中学校時代、現在の小学校のすぐ北側に田んぼがありました。田植えや麦刈りをした記憶があります。麦は畝の両側から刈り取りました。その時、鎌で手を切り衛生（Ⅱ保健）の先生（Ⅱ出席の藤田妙美さんのお母さん）に治療してもらった記憶があります。

池内 かつて学校の通用門（Ⅱ俗に東門）を入った右側に畜舎があつて、牛とヤギを飼っていました。時々昼休みにヤギが畜舎から逃げて運動場を走っていた思い出があります。

渡部 当時、家畜小屋と農舎は、ゴミ焼き場に沿って西向きに建っていました。農舎の東側に川が流れ、一部が暗きよになつていましたが、中学校の真ん中あたりでは表に出て流れていました。

宇都宮 落穂拾いを体験しました。拾った落穂を学校に持っていききました。何かの資金となつたと思います。

4 小学校の建物など

まず、元の正門のところに大きい門柱が四本ありますが、中央左の門柱に、国民学校から北伊予小学校に変わった時、大きな銘板が昭和二二年に取り付けられました。この銘板は現在小学校の校長室に保管されています。校舎や樹木の移り変わり等

に關していかがでしょうか。



写真6 北伊予小学校正門（昭和20年代）



写真7 半円形の石段の玄関

高石 戦後間もない頃の校舎の配置は、大正二年に新築された当時とほぼ同じであると写真を見て思います。

まず本館ですが、半円形で二段の石段がある正面玄関は忘れられません。校門を通つてすぐ右手の県道沿いに温室と立派な講堂があり、左には相原賢先生の顕彰碑と小斎院泉がありました。そして本館の東の端には、入りづらかった職員室、いくつかの校舎の中央を南北に長い渡り廊下が続いています。第二号舎、第三号舎、そして中学校の校舎側に一、二年生の第四号舎がありました。運動場に面した東側には旧式の汚い便所があつてセンダンの大木がありました。便所の臭いは特別でした。**萩野** 私の通った頃の小学校についてお話をします。校門から入った所に玄関があり五葉松が二本ほどありました。校歌の三番に出てきます。残念ながら枯れてしまいました。また正岡子規の「門さきにうつむきあふや百合の花」の句碑がありました。正門の左側に大きなヒマラヤスギがあり、雨が降つても、その木の下に入るとぬれることはありませんでした。またその西側

に結構深い泉があり、なぜかアヒルが二羽飼われていました。本館の西の突き当りには購買部があり、よく買いに行った記憶があります。コンクリートの新しい南校舎と北校舎の間に二階四方のセメント製の稲作観察用の囲いがあり観察授業があったと記憶します。学校給食は一、二年生頃までは自校式だったと思います。それ以降は給食センターができたと思います。

池内 小学校低学年の時、晴光院の墓地の大きなマツの木が燃えましたが、校舎の二階(第二号舎西側に昭和四年増築したところ)からよく見え、見に行った記憶があります。講堂のすぐ北側にあった中学校の校舎(特別教室)は、運動場の中を曳き(Ⅱ牽引移動)、移転並びに改造工事をした記憶があります。講堂の東側には小高い盛り土の奉安殿(注3)跡がありました。この奉安殿は戦後間もなく青年団や先生方が泣きながら壊したと聞いています。またすぐ北側には「神宮奉済殿」という社があったと聞いています。

第二号舎西端の二階に、不思議な伝説があると聞いています
が……。

渡部 夜になると赤デンチを着た幽霊が出るといううわさを聞きました。また、ある言い伝えでは、「一段上がつてやれうれし、二段上がつてやれうれし……」と言い、子ども心に恐怖を感じたものです。

二階建ては当時民家も含めて非常に珍しいものでした。第四号舎の便所側は一年生で、職員室に近いほど高学年でした。それから正門近くにあった二宮金次郎像についての思い出はいかがでしょうか。

池内 分団リレーで優勝した時、あそこへ上がつて皆で肩組んで記念写真を撮りました。私が六年生だったと思います。

高石 当初は銅像だったんですが、戦時中、金属製の物資はすべて国へ供出させられました。撤去された後、現在の陶器製の



写真8 校内の二宮金次郎像
(上 戦前、下 現在)

像に置き換ったと聞いています。当時金属類はすべて供出の対象となつて、主食の米も強制的に供出させられた時代でした。
渡部 私の友人(同級生)の中に優秀な人が大勢おりました。疎開で北伊予の山里や親戚へ戻ってきた人で、優秀な人がいました。生活が安定してからはまた転校して元に帰りました。
藤田(妙) お昼の時間は、こちら(地元)の人は米七分と麦三分のご飯だったのですが、引き揚げで帰った人は、皆丸麦のご飯だったんです。ポロポロとお箸にかからないで持ち上がり、横で白いのを食べているのが気の毒で仕方ありませんでした。

5 配給の頃

当時、子どもたちはどのような服装で通学していましたか。

窪田 終戦後でしたので物資がなく、買うに買えないので、幾何学模様の毛布を冬のコートにして着ている人を見ましたが、まだよい方で羨ましく思いました。中学二年生頃まで下駄ばきが多かったです。靴はないし、時々学校で配給がありました。当たらなければ靴はなく下駄ばきでした。しばらくしてゴム草履が出まわり重宝しました。小学校五年生の時、初めての集合写真がありますが、それ以前は一切ありませんでした。



写真9 男子のカーキ色の国民服

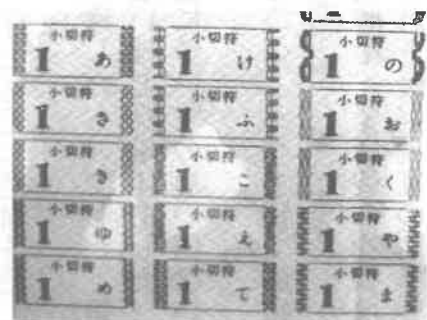


写真10 衣料切符

配給という話がありましたが、この話をもう少し聞かせてください。

藤田(妙) 欲しくてもくじに当たらなければ何もなく、お金でも買えない時代(注4)でした。親の着物を解いて服にしてもらっていました。男の子はカーキ色(＝枯れ草色で当時国防色といっていた)で折襟の国民服、女の子は紬や縫い直して作ったモンペ(＝はかまに似ていて足首を絞った服装)をはいていました。

各家には衣料切符が配られて、切符で品物を買う時代が続きました。まず食べることでした。ヤミ米が出回り、衣類と食糧を交換することも多くありました。

池内 小学校の低学年の時、女子は結構ネルのモンペをはいていました。草履(八つ折れ)も履いていました。

藤田(常) 中学校の頃流行だったかもしれないですが、母ちゃん下駄・父ちゃん下駄を履いて、学校の廊下がコンクリートだったのでカラコンロンと鳴らして通った記憶があります。

池内 給食は小学校に入ってから間もなくできました。それまでは家が学校に近かったので食べに帰っていたのを記憶しています。学校に近い人は皆帰っていたと思います。

稲垣 給食ですが、戦後GHQの援助物資によって脱脂粉乳の給食が始まったんですが、飲めたものじゃありませんでした。戦後は戦中よりも厳しい生活を強いられました。栄養失調や栄養の偏りなどが問題になりました。食糧を確保するのは大変だったと思います。

池内 それに関して、寄生虫退治のためのチョコレート味の薬を希望者は買って飲んだのを覚えています。

窪田 当時、栄養状態が悪かったので、「肝油」という栄養剤を学校で世話をしていました。

6 不衛生な時代と給食

ノミ・シラミが多かったので、頭に直接DDT(強力殺虫剤)の一種を噴霧器でふり掛けかけていたそうですが……。

藤田(妙) シラミが多くDDTを頭からふり掛けられ(注5)大変でした。頭も服も胸のあたりまで真っ白です。

岩崎 私は昭和二二年生まれですが、女子は頭を真っ白にしていたのを記憶しています。



写真11 小学校の国語の時間
(昭和24年頃)



写真12 小学校の授業風景
(昭和24年頃)

校舎が四年生頃新しくできたのを覚えています。建設中の工事をよく見ていました。それと給食の脱脂粉乳はなかなか飲めませんでした。

米家 私が小学校に入った時は、完全に給食があつて給食室もありました。二年生頃には鉄筋の新しい校舎が一棟ありました。本館だけ木造でした。学校の中に給食調理室がありました。多分小・中学校の分を作っていて、中学生が台車をゴロゴロ押して中学校まで運んでいました。

小松 合同の給食調理室ができたのは昭和二八年でした。

7 コンクリートの新しい校舎

新校舎ができましたが、雨漏りなどで非常に短い期間なのに駄目になりました。当時鉄筋コンクリート建ての校舎は非常に注目されたと思います。

小松 五年生の時です。ワックスの臭いがきつかったのを覚えて



写真13 小・中学校の航空写真(昭和43年)

ています。二階の東端に音楽室ができて、音楽室専用のピアノが入りました。オルガンも何台も入って、スタンド式のシロホンや電蓄(電気蓄音機の略)が入りました。ちょうど小学校設立七〇周年と新校舎落成の年が一緒だったもので、卒業生有志の方々の寄付によるものでした。オルガンのふたの内側にその方の名前が書いてありました。新任の音楽担当の篠崎良廣先生が担任で、ピアノを教えてくださいました。希望者はバイエルを自分で練習し、週に一度先生が

チェックしてくださいました。それがうれしいので、昼休みは好きなオルガンを目指して急いで音楽室へ行きました。給食後に、当時話題になっていた『ビルマの竖琴』の本を、先生が毎日読んでくださるのも楽しみでした。

宇都宮 当時の黒田勉教頭先生が校歌を作られました。

何年頃ですか。

宇都宮 今の校歌の前、昭和三〇年頃かな。ピアノが来てからだと思います。

「いしづちふかき くもくれないに あしたの ひかり……」歌詞もメロディーも少し小学生には難しい曲ですが、教えてくださったことを記憶しております。(宇都宮さんが校歌の一節を歌う)

8 モダンで重厚な講堂

大正二年に竣工し、昭和十一年

に改築したモダンで重厚な講堂や校内の校舎などについてお聞きします。

米家 小学校の講堂(注6)は、独特な存在で、体育館の代わりでもあり、雨の日は講堂で跳び箱やマット運動をしました。掃除の時、長い床をダッダッ^{ぞうきん}と雑巾掛けしたこともありました。舞台の両袖^{そで}には階段があつて、その雰囲気^{そで}に胸がワクワクしました。

小学校四年生の時、音楽は峰松先生でした。NHKの合唱コンクール、多分その年が初めての出



写真14 鉄筋コンクリートの新しい校舎(昭和32年)



中村（ここから座談会に参加）

講堂は黒い板張りで独特な雰囲気があって、背筋が伸びるような感じがしました。夏休みプールへ行くため永田からバスに乗って神崎



写真15 立派な小学校の講堂（外観と内部）

場だったかと思いますが、数名選ばれて夏休み前に練習をしました。喉を痛めるので泳いではいけないのですが、一回だけ中川原橋の下で泳いだ記憶があります。コンクールへ出しましたが、他の学校はスカートやブラウスをそろえていましたが、北伊予は皆バラバラでした。

岩崎 入学して六〇年経つのであまり記憶がありません。校舎の思い出はあります。掛け算が四年生頃からありましたが、農作業で唐箕（＝穀物の実の入ったもの）と実入りの悪いものを選び分ける道具を回しながら母親が教えてくれた記憶があります。学校から家まで遠くて畦道を歩きながら曼珠沙華（＝彼岸花）の花を竹で切り倒したりして、サトウキビをかじりながら帰りました。

まで行きましたが、非常に遠く感じました。センダンの木があった、プールから上がった後、その木の下を通ると涼しく感じました。帰り道、田んぼに泉の水をポンプで汲み上げているところでは、水を触ったり、飲んだりした思い出があります。

高市 いろいろな行事がある度、講堂は変わることなく思い出となっていました。

トランペット・鼓笛をやっていました。中四国大会へ出て行きました。夏休みに講堂で隊列、音合わせを行った記憶があります。講堂の東側に木が茂っていて、そこで休憩をした記憶があります。

脱脂粉乳かどうか記憶は定かではありませんが、一年生の初め頃アルミのお椀で飲みましたが、冷めると幕が張って飲めなかったのを思い出します。給食室から運ぶ途中で給食がひっくり返り、他のクラスから集めて配り直したような記憶もあります。教員室へ行くのに段があり、特別な印象でした。教員室の後ろには図書室や保健室があったのを覚えています。

久津那 一番覚えていいるのは素敵な講堂です。運動会のお昼休みに母親と講堂の中でお弁当を食べました。講堂の壁に金・銀・赤などの紙が貼られ、入賞した絵が展示してありました。

教室から本館にある教員室へは幅一メートルほどの渡り廊下を歩いて学級日誌を取りに行きました。渡り廊下のそばに大きな木があったのですが、夏時期には大きな毛虫がいっぱい湧いて、黒い糞が落ちていました。そのそばを歩くのが少しいやな気分でした。教員室へ行くと威厳のある先生方がいらして特別な部屋だと思っていました。

萩野 何年生頃か定かではありませんが、受け持ちの先生が、「講堂ができた時に、周りの地区の人が見学に来ました。」とおっしゃっていました。講堂の北側に底のある通路があって、本屋さんが科学の雑誌と学習帳を販売に来ていて、毎月買うのが非

常に楽しみでした。講堂の東側に三角の空き地があつて大きな木がありました。そこにも毛虫がたくさんいました。

9 中学校の農場と作業

中学校の農場、特に、山王原に関する思い出などを話してください。

渡部 農場といえば、割当番制で、水やりなどの作業や下肥を山王原まで運んだ記憶があります。

山王原は学校の東にありました。昔は樹木の生い茂る林であつたところを高等科の農業実習畑として、児童の労力奉仕活動によって開墾したと聞いています。そのほか、学校には実習田が運動場の北側、小川をはさんで約一・五反歩(Ⅱ一反は一〇坪)ありました。また運動場の北東の隅に農舎があり、隣の畜舎には牛やヤギを飼っていました。

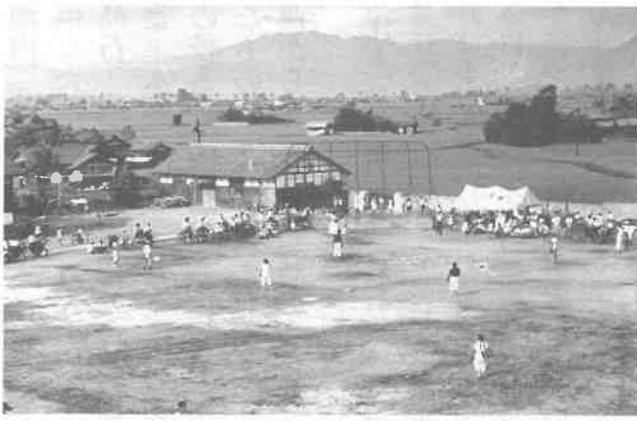


写真16 中学生の野球大会と農舎
農舎の右側付近が現在の小学校正門付近

稲垣 当番制で草を集めて牛に与えた記憶があります。

池内 知っています。

岩崎 私は昭和三八年卒業ですが知っています。

大政 私も知っています。天稗で下肥を担いでいってました。五月頃にはリヤカーを引いてタマネギやジャガイモを売りに歩いてまわりました。

窪田 中学の時に田植えや麦刈りをしたことはありますが、山王原の畑に行った記憶はありません。



写真17 中学校前庭と校訓碑(昭和31年頃)



写真18 中学校移転後の小学校(昭和52年)

小松 女子は家庭科でした。家庭科で浴衣を一枚仕上げた記憶があります。今では考えられないことです。その時の先生が村口菊子先生でした。

池内 私も村口先生は担任でした。

小松 授業で浴衣を縫ったのがきっかけで和裁に興味を持つて、それを仕事にしたという同級生もいました。

渡部 運針、針の使い方として雑巾を縫った記憶があります。

昭和三一年頃の話は、ありませんでしょうか。

藤田(常) 中学校と小学校の間にあつたテニスコート付近のセンドンの大きな木が伐り倒されましたが、中学の時その木で本箱を作った記憶があります。技術科担任は高橋先生でした。

昭和四三年頃の写真を見ますとセンドンの木が写っております。

萩野 私の記憶では、昭和四九、五〇年頃もあつたようですが……。

藤田(常) では、もっと別の場所の木かもしれません。

池内 センダンの木は結構たくさんあったので、部分的に切り倒したかもしれませんね。

高石 昭和四三年に学校を撮影した航空写真(写真13)には、講堂・本館・コンクリートの新校舎が二棟あります。写真の後方の校舎は講堂の北側にあった中学校の特別教棟を曳いて移転したものです。写真を見ても、大正の初め、この地に伊予神社の西から移転した当時の校舎とは隔世(かくせい)の感があります。

(注1) 墨で塗られた教科書 『北伊予中学校 五十年のあゆみ』(平成九年発行)の「思い出」で、昭和二三年卒業(二期)の常盤卓雄さんは「入学当時はまだ新しい教科書もできてなく、戦時中の古い教科書が使われたが、最初の時間に先生の指導で、適当でない記載箇所を墨で塗りつぶす作業を行った。特に国史の本は最初天孫降臨(てんそんこうりん)からほとんど塗りつぶし、真つ黒になったことを思い出す。」と記し、さらに「激変、混乱の時代であった。自由主義を唱え開放感に浸った時期でもあった。」と記している。

また昭和二五年度卒業の池内恵吾さんは「心ゆたかな三年間」の中で「敗戦による価値観の大変革で、小学校の教科書に墨を塗るといふ異常な体験を経て入った中学校は、帽子に巻かれた白線のようにみずみずしい場所だった。」と記している。

(注2) 山王原の実習畑や実習田 旧職員で神崎出身の高橋寛先生は「私の思い出」の中で「当時は学校の東の方、約三百メートル近くに、山王原という学校の畑が約七アあり、タマネギ、大豆、サツマイモ等の野菜を作っていました。また、校舎のすぐ北側には、七アばかりの水田があり、田植え、施肥、除草、灌水(かんすい)などいろいろ苦労しながら体験学習したり、収穫物の一部は全校生でおいしく頂いたりしておりました。」と言ひ、昭和二七年度卒業の水口憲三さんは「北伊予中学校の思い出」の中で、「学校には実習用の田と畑もあった。また、農耕用に牛を飼っていた。」と記している。

(注3) 奉安殿 昭和二三年小学校卒業の岩崎利雄さんは、『北伊予小学校百年のあゆみ』の中で、「講堂での式典には校長先生がモーニング姿に白い手袋で御真影を頭の上に掲げるのである。あの時の校長先生の真剣なお顔が今も目に浮かぶ。学校の正門に入ると、また二宮尊徳の像の前でも一礼したものである。」と記している。

(注4) お金で物が買えない時代 昭和二四度中学校卒業の野垣マサノさんは、「思い出」の中で、「戦後の物資不足の時代で、ノートや鉛筆、また衣料品等、何もかも不自由しました。教科書も一年生で使った物は、そっくり下級生に譲ったような時代でした。……当時はお茶の葉も不自由な時代で、大谷池の学校林へ全校で藤の葉を摘みに行き、葉を蒸して乾燥させ、学校で使うお茶の葉を作りました。」と記している。

(注5) DDTの散布 昭和二九年小学校卒業の西本栄子さんは、「四年の時、新しく女子の制服が出来ました。ヘチマカラーで前ダブル、肌色のボタンがついていました。また、ミルクとみそ汁の給食が始まりました。なかなか飲めませんでした。頭のしらみの駆除で真つ白なDDTをまかれたのも、この頃だったと思います。先生も生徒も大変です。今だったら大騒ぎになるでしょう。海仁草(かいじんそう)も飲みました。皆で飲んで薬を飲み、その後であめを一個ずつもらいました。」と記している。

(注6) 講堂 昭和三四年小学校卒業の岡田トヨノさんは、「つい最近まで残っていた、あの立派な講堂がとても印象に残っています。始業式・終業式・卒業式そして学芸会と様々な場面が断片的に、ついこの間のことのように思い出されます。」と『百年のあゆみ』に記している。

(二) 高度経済成長期から現在まで

それでは後半に入ります。昭和三〇年代後半頃から高度成長期に入り、くらしが少しずつ豊かになってきました。中学校の分離は昭和五〇年ですが、その頃の小・中学校の思い出や地域、PTA活動等のお話もお聞きしたいと思います。

第一に 子どもが受けた高度経済成長期の恩恵

第二に 分離までの小・中学校の営み

第三に 分離、移転に伴うことなど

という柱立てで進めたいと思います。

10 東京オリンピックの頃

昭和三十三年に小学校の鉄筋コンクリート校舎が完成し、ちょうど七〇周年記念と松前町合併を併せて、松前町、地域住民一体となった式典が行われました。戦後の発展はそれからオリンピックにつながっていくと思います。東京オリンピックが昭和三十三年秋に開催されました。

大政 世界から九四か国が参加して行われましたが、その時先生は「君たちが生きている間に、日本では二度と行われることはないであろう。」と言われました。最終日のマラソンの時に、各教室、九クラスありましたが、テレビを電器屋さんから借りてきてくれてみんなで見ました。北伊予中学校から、町内の聖火ランナーの伴走者として同級生の大政利博君が選ばれ、英雄でした。ちょうど受験でしたが、オリンピックに熱中したため志望校に入らず、苦い思い出があります。

米家 オリンピックの年は、小学校五年生でした。テレビを家で見ていましたが、体操女子の思い出で、祖母がなかなかチャスラフスカ選手の名前を言えませんでした。また「東洋の魔女」と言われた女子バレーボールの優勝には興奮しました。

テレビ・クーラー・自動車等が普及した時期ですが、学校で施設・設備が充実してきたようなことに関していかがでしょうか。

萩野 小学校の授業の時、NHKの教育番組を時々見させてもらい、それが楽しみでした。特に理科の番組などは期待していました。

小松 戦後間もない頃と比べ、大変な変わりようだと思います。昭和四三年に一八台のテレビをPTAが購入寄付したという記録があります。

高市 私たちが入学した時には既にテレビがありました。アポロ一号のアームストロング船長が月面着陸したことを教室のテレビで見た思い出があります。理科の実験などNHK番組をテレビで見ました。

11 子どもたちの自主活動

その頃ですが、亥の子・高張りでは中学生が中心だったという記録がありますが、思い出はないでしょうか。

高市 大溝地区のことをお話しします。私たちの頃は、中学三年生が一番上で行事ごとを行っていました。親や愛護部など大人の指図はありませんでした。

相撲大会、百八灯（＝盆行事）、高張り・神輿、亥の子などです。相撲の土俵も藁で作ったと思います。できないことは、大字の土木さんや区長さんに教わりました。お盆の百八灯では、空き缶に油を入れ、布きれを巻いて芯を作って灯しました。花火大会も子どもたちでやりました。一時期、上級生がいない時期もありましたが、そんな時は女の子も参加したかと思えます。

秋祭りの提灯行列も、子どもたちで相談して、登校の道々、決めたことを伝達したように思います。各家を回ってお金やお菓子をもらい、中学三年生が分配しました。神輿は宮入り・宮出しの時に公民館に集まりましたが、特に子どもが減ってから、提灯行列には女子が参加して、大字の役員さんが軽トラで運んでくれました。公民館で愛護部の人のご飯の準備をしてくれていたようです。

亥の子は、男子が石に縄（なわ）をつけて各家々を回って搗きました。

12 小・中学校合同の校地ならでのこと

合同の校地だと、今では考えられないいろいろな思い出もあるのではないかと思います。いかがですか。

高石 小・中学校が同じ校地内にあったため、サイレンを鳴らすことができなかったと聞いています。小学校の授業時間は四五分、中学校は五〇分。その五分のズレに困って、小使さん（＝用務員）がチリンチリンと鈴を振って回っていました。それ以前は小使室前に板木が吊るされていて、それを木槌でたたいていました。同じ敷地内にあったがゆえに、目に見えない苦労があったようで、両者が気兼ねして、教育活動も十分できなかったことも多々あったかと思っています。



写真19 軒下に吊るされた板木

秋の運動会は小・中学校はもとより、幼稚園や青年団なども加わり、村挙げての一大行事でした。特に最後に行われる分団リレーは最高の見せ場でした。

渡部 小・中学校一緒に、行事が一回で盛り上がりました。しかし、デメリットもあったかと思っています。

萩野 小学校の時、プールで水泳大会がありました。小学校の先生から「応援は静かにしなさい。」と言われ、静かにしていたら、中学校の先生からは、「そんなことではいかん。大会なのでもっと応援しなさい。」と言われました。このように、お互いに先生方が気配りをしていたように思いました。

小松 小学校のプールの完成は昭和四〇年でした。

13 新校舎への移転

さて、ここから中学校の分離について話を進めてまいります。

新校舎に移った頃の方々に話を伺いたいと思います。

渡部 昭和五〇年分離だとお聞きしましたが、私が上灘へ勤務していた頃、神崎のM先生が、「北伊予中学校分離に絡んで用地を探しているのだから、自分の田んぼを提供する……」というような話を通勤の汽車の中でしておられました。当時、分離の機運があつて、具体化していた時期かと思っています（注7）。

中村 中学校三年生から新校舎に移りましたが、その前年に体育館が完成していたので、体育館を使うとき通った記憶があります。北伊予中学校の五〇周年記念誌には、昭和五〇年八月二四日完成、同八月二五日授業開始と書いてありました。

久津那 引越しの件ですが、あまり覚えてないので、友人に尋ねましたら、夏休みの登校日に、旧校舎で使った重い木製の自分の机を運んだようです。備品など他の物は、先生やPTAの方が移されたの

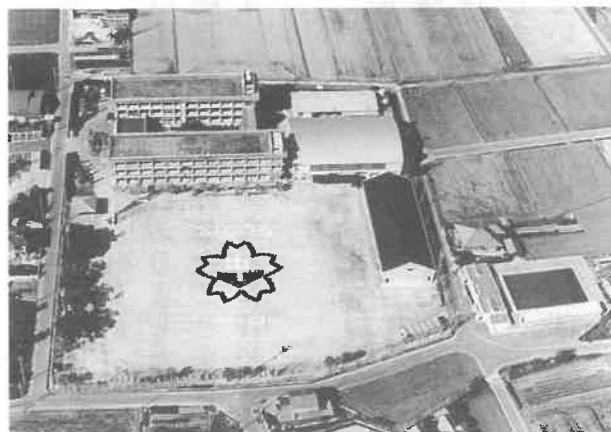


写真21 分離した北伊予中学校全景（平成7年）



写真20 中学校分離新設用地（点線部分・昭和48年）

高市 中学二年生の時でしたが、旧校舎では木の机でしたが、新校舎には軽いパイプ椅子、どちらも使った記憶があります。

新校舎になつてからは、石拾いが思い出されます。体育の時間や掃除の時間には、絶えず石拾いをしましたが、暑いときは大変苦痛でした。運動場は野球部が主に使い、その隣でバレー部でしたが、体育館ができてからようやく十分練習できるようになりました。軟式テニス部は、以

[illegible]

前の農舎の前のコートまで行つて練習していました。石拾いはその後三年生の時もあつたと思います。

久津那 暑い最中に草引きもしました。放課後などで、横一列に並んで、草を引きながら一斉に前に進みました。それから、真新しい校舎についてですが、二階の体育館側に壁のある立派な通路があつて、雨が降つても風が吹いても関係なく快適だったことと、保健室の運動場側の入り口のことを、新鮮だったのか妙に覚えています。それと、廊下の床に誤つて傷をつけたときなど、校舎を大事にするようにと注意されることも時々ありました。

萩野 中学一年生の時に移転しました。旧校舎の時は一年A組で担任は池内先生でした。教室がトイレの横で夏はハエが多く、ハエ取り紙を貼つてあつたり、ハエたたきを常に持つていたこと、臭いがどうしようもなかったという思い出がありました。夏休みに引つ越した記憶があります。

新校舎では、水洗トイレになりましたが、不慣れなため流してはいけないうものを流す生徒がいて、たびたび詰まりました。技術科の宮領理一郎先生が手をつき込んで汚物を取り除きました。偉い先生だと思ったことは今も鮮明です。

また、放送委員をやっていましたでしたが、放送設備が新しくなつて使い方が分からないので、テープレコーダーを壊してしまつた記憶があります。

それと、三年の時に、体育館で音楽発表会があつたように思います(注8)。

それから、中庭には木が植えられていましたが、玄関の築山は卒業までにはできていなかったように思います。

小松 『五〇年のあゆみ』によると、この中庭は、大平元総理の庭を手掛けた篠崎鷹近という方がボランティアで設計図をかいで、PTAの奉仕作業で樹木の移植工事をしたそうです。ほとんど旧校舎のもので、新たに購入したのは、ナラの木二本だけです。



写真26 校名碑の工事(昭和55年)



写真27 PTAによる生垣づくり(昭和54年)

高市 その方は、昭和二〇年代後半、北伊予中学校にご勤務された三代目の校長先生です。

小松 南校舎の防球ネットは昭和五二年、外回りのネットは五四年にできました。五六年には校訓碑を旧中学校から、玄関前の「出逢いの丘」に移しました。

高市 プールはまだなくて、小学校の方へ歩いて行きました。小松 中学校のプールは昭和五八年にできましたが、用地が沼地で基礎が難工事だったと聞いています。池内 そうです。あそこは田んぼのような沼地でした。



写真28 元校地から移動した校訓碑



写真29 完成間近い中学校のプール(昭和58年)

高市 小学校最後の校長先生は、伊賀上先生でしたが、年配なので相撲がお好きでした。松前や五色浜では相撲大会がありました。北伊予にはまだ相撲部はありませんでした。先生が相撲を指導してくれて、春に護国神社の大会に出たところ準優勝し四国大会まで進みました。卒業後何年か後に土俵ができました。

小松 中学校に土俵ができたのは昭和五五年です。その後平成に入ってからですが、全国大会まで進んだこともあるようです。

高市 伊賀上先生のお陰^{かげ}だったのかなと思います。

14 小学校の改築

小松 小学校の旧コンクリート校舎は傷みが早く、昭和五五年には校舎建築促進委員会が開かれ、五七年八月に新校舎の受渡しがありました。これに際して、講堂で旧校舎のお別れ会が開かれました。児童と一般の方が参加されました。校舎のお別れに当たり大勢の方が集まっていたことに驚きました。

米家 一時期名古屋に住んでいましたが、子どもが小学校二年生の時に北伊予へ編入しました。その時学校の南門（正門）がないことに気づき、びっくりした記憶があります。

古い校舎では廊下の床がでこぼこだったので、新校舎になって廊下が平らなことがとても新鮮だった、と近所の子どもさんから聞いたことがあります。大変だったのだなと思いました。

15 地域・PTAからの支援

今度は地域の保護者としての立場からのお話を伺いたいと思います。廃品回収を行っていたようですが。

窪田 PTA活動をしていた時、ジュースの販売・廃品回収を初めて開始しましたが、昭和五〇年頃廃止になり残念です。

萩野 東古泉は小学校の頃から行っていましたので、もう少し前かと思います。今も年二回愛護部主催で行っています。

そうした事業が、小学校のテレビを買ったり、小鳥小屋作りの力になったのでしょうか。給食室の排水工事や運動場の遊具もPTAが奉仕活動をしたようです。米一升運動について記憶はありませんか。

高石 資料によれば、昭和三五年度からPTA活動として「米一

升・麦一升運動」が始まり、「麦一升運動」は五三年度で廃止されているようです。

稲垣 昭和六三年から平成元年にかけてPTA事業部の部長をしました。米を集めたり、廃品回収をしたり、運動会にはアイスクリームを農協から安く仕入れて、子どものためにと一生懸命販売した記憶があります。

そのお金はどのように子どもたちに還元されましたか？

渡部 部活動がだんだん盛んになった時期ですので、例えば、楽器、ユニフォーム、図書の購入なんかに使われたのではないのでしょうか。多くの皆さんのお陰で、ずいぶん充実しました。

中でも、小学校では、金管バンドが活躍しました。「学校要覧」によれば、平成三年から九年の七年間で全国大会に六回進み、

九年には優秀賞を受賞したとあります。

また平成元年に愛媛県運動公園で第二回全国スポレク祭がありましたが、開会式で見事な演技と演奏を披露しました。子どもにとつてはこうした経験が、将来の夢の実現の基盤になったようです。保護者の方も、「小さい子どもらが堂々とやっとなつた。よかった。」と言っていました。物心両面の



写真30 第22回マーチングバンド全国大会出場
(平成7年・東京 武道館)

ました。物心両面の

協力があつたからですね。

どの家庭も、いろんな形で協力をしていたようです。電話帳の配布をしていました。

大政 私にPTAをやっていた時に行っていました。今年から廃止になりました。簡易保険の集金も行いました。その収益が活動資金になりました。

小松 電話帳の配布は、時代が変わって、専用の車や担当者の登録が必要になったりして、個人情報について問題があつたと聞きました。大変難しい時代になりました。

宇都宮 子どもが二年生と四年生の頃、主人がPTAの役員をしていましたが、結構事業部が活躍していたと思います。

萩野 愛護部の役員を四、五年前にして、後援会費を集めるのに各家庭を回りましたが快く協力してくれました。一口千円で少々高めですが協力していただき、北伊予は非常に協力的だなと感じました。

中村 息子が小学校六年生の時に愛護部をしました。お金を集めに回りましたが、子どものいない家庭でも協力的でした。

岩崎 現在地区の役をしていますが、問題なく協力していただいております。

米家 皆様と同じく教育後援会費の集金や奉仕作業をしました。それから、登下校に際して地域の皆様が活動し、見守り隊の方などが子どもたちを育てようとする気持ちが伝わり、北伊予はよい所だと思いました。

16 分離後の中学校の営みから

小松 これは『五十年のあゆみ』に詳しく出ていることですが、わたしが勤務していた記憶から、ここで二つ紹介したいと思います。

一つ目は、昭和五八年、三年間の文部省(当時)指定体力つく

り研究推進校になったことです。「体をつくることは心をつくること」と考えました。PTAの奉仕作業で、五〇坪の砂場、腹筋台、タイや跳びのタイヤなどができて環境が整いました。男女とも裸足で、男子は上半身裸の体育でした。運動の苦手な生徒も、それぞれ一生懸命でした。

この頃、県の健康優良生徒、健康優良校表彰、全国保健体育指導研究表彰、学校保健文部大臣表彰などを受けました。「北中ストレッチで使ったシルクロードの曲を耳にすると今でも体力つくりを思い出す。」という卒業生の声も聞きます。

二つ目は、その間の部活動です。全校九クラスの規模で、伊予地区一校の総体や新人戦で優勝旗が四本ありました。

男子軟式テニスは一ペアーが四国大会に進み、女子バスケットボールは全関西バスケットボール交歓大会で優勝しました。そして、男子バレーボール部は夏休みの全国大会に二回進みました。昭和六三年は仙台が会場で、平成二年が松山でした。

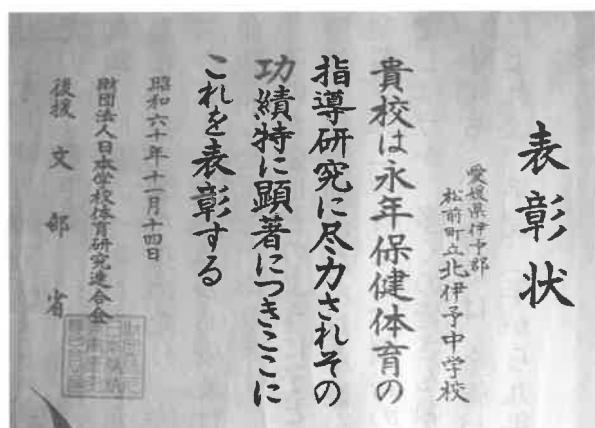


写真31 日本学校体育研究連合会・文部省表彰 (昭和60年)

八月上旬の四国大会で全国大会出場が決まりましたが、仙台の時、お盆明けで東京行きの飛行機は空いてなくて、「往きは生徒の席が足りん。」という状態でした。そのとき、旅行社に勤めていた北中OBで保護者の方が、「せっかく頑張つて得た出場チャンス。何としても一緒の便で思い出を作ってください。」と申し出てくださいました。大変なお骨折りだったと想像しますが、お陰さ

まで選手全員が同じ便で行くことができました。

それから、この頃の生徒さんからは、「しんどいことにあっても、あの部活動をやり抜いたと思うと踏ん張れる。」とか「もの言い方を学びました。」という声を聞きました。



写真32 全国大会に出場した男子バレーボール部
(昭和63年・宮城県仙台市)



写真33 全国大会に出場した相撲部
(平成4年・石川県七尾市)

それから、小学校も昭和六三年から平成二年まで「体力づくり推進校」になりました。校区に一つずつの小・中学校という点が生きたのではないでしょうか。

17 その他

その他ありましたら、お願いします。

池内 私の田んぼが中学校の近くにありますが、子どもたちが下校時によく挨拶をしてくれ、有り難く思っています。

稲垣 東古泉から三稜の道のりを、小・中学校に通いました。現在、小学校の子どもたちが毎朝三班で七時に出発しており、朝の挨拶をしてくれます。集団登校はよいものだと感じていま

す。

渡部 同じく子どもたちは朝の挨拶をしてくれるし、保護者の方もよく活動してくれています。ただ、地域の育成学習会などがありますが、愛護部の参加が少なく地区の役員ばかりの参加ということもあるようです。難しい現状ですが、もう少し問題意識を持ち、連帯感が欲しいところです。

藤田(妙) 北伊予小学校の時、アメリカから援助物資として脱脂粉乳とお砂糖がたくさん入りました。その時作って出していたのは私の母です。飲みにくかったという思い出が多いようですが、母は保健の教員として定年まで勤めました。

窪田 物が不自由な時期でしたので、PTA活動を始める際には、皆がすぐに賛同して協力して行いました。時代の流れで、電話帳の配布がなくなったのは残念ですね。

PTA活動に加えて、最近「おやじの会」ができました。

大政 本日ご出席の渡部先生と平成一〇年に一緒に過ごさせていただきました、その年に私が立ち上げました。現在も続いているようです。活動の内容は、小・中学校の保護者の力でお金をかけずに奉仕作業をすることです。本日、司会の小松先生がご勤務のとき、中学校の芝生の植え替えや側溝の土砂の浚えを行いました。

小松 本館南側の芝生の土手が傷んでイチョウの根がむき出しで、雨の度に土が流れていましたし、自転車置き場がすぐ水浸しになっていましたから。土木の道のプロになった卒業生の方の応援もあつ



写真34 中学校の校長室に掲げられている
安倍能成揮毫の扁額

て、地域の人たちの思いを実感したことの一つでした。

大政 「おやじの会」は、愛媛県では西条にもありました。北伊予では比較的早い時期に発足したと思っています。地域としての特色を生かしながら、連帯感を持って情報交換を行い、いまだに学校へ行ったり来たりしています。北伊予は温かいところだと感じています。

(注7)用地の買収 『北伊予中学校 五十年のあゆみ』の座談会の中に詳しく記載されている。その中の、当時のPTA会長だった済川裕、升田澄照両氏の発言から抄出(しようしゅつ)する。

升田 ……昭和四五年三月一〇日校区の町議会議員、教育委員、教育長、校長、PTA正副会長が集まり独立問題の初会合を開いた。……昭和四五年八月二三日独立用地確保促進協議会が発足した。

済川 ……それから区長さん、PTA会長が毎晩、地権者をまわり、用地買収にとりかかった。

升田 ……翌昭和四六年一二月二三日、町議会で面積五千二百五六坪の買収が決定した。……

升田 ……校区の熱意と用地関係者の協力で実現した。しかし、地権者の人にはすまないことをしたという気持ちは持ち続けている。

済川 ……中学校建築当時の北伊予校区町議会議員団は一致協力して推進した。……

済川 ……し尿処理の草田池の排水には補償があった。学校の廃水処理にも補償の問題があった。……教育長は廃水処理をお願いしてまわった。そして半年後に解決をした。

(注8)運動場の様子と音楽発表会 昭和五二年度卒業の西村浩子さんは、『北伊予中学校 五十年のあゆみ』の「北中での思い出」の中に、「運動場には大きな石がゴロゴロとあり、周囲にはまだ草の垣根があった。」と当時の状況を述べ、「生徒会にいた私たちは、中学校でも文化祭をやりたいと先生方をお願いした。その結果、すぐには難しいので、それに代わるも

のをやってみて、それから考えようというお答えをいただいた。そして開かれたのが『音楽発表会』だった。……毎年『文化祭』のうわさを耳にすると、『音楽発表会』のために走り回った日々を思い出す。それと同時に、生徒の要望を生かす方向で考え、導いて下さった先生方のお顔を思い出す。」と記している。



写真35 懐かしの母校 北伊予小学校(現在)



写真36 わが母校 北伊予中学校(現在)

本日は暑い中、長時間にわたりありがとうございました。皆様から頂きました貴重なお話を地域の方々や子どもたちに、『北伊予の伝承第12集』で伝えてまいりたいと思います。皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念し、お開きといたします。なお、記事の中にふんだんに挿入(そうじゆう)しました大部分の写真・資料は、北伊予小・中学校長のご厚意により拝借したものであります。ここに厚く御礼申し上げます。

Ⅱ 北伊予の幹線道路沿いの家並みの移り変わり

一 北伊予地区の主要道路について

昭和三〇年頃と現在の北伊予地区の幹線道路（往還）沿いの家並みの移り変わりを各地区ごとに調べた。

明治三六（一九〇三）年測図の地形図（図1）を見ると、現在の道路と大きく異なり、幹線道路の改修が交通体系や生業と大きく関わっていることが分かる。特に地区内を東西に貫く一般県道「八倉松前線」と南北に貫く主要地方道「松山伊予線」の改修が大きい。

松前町は昭和三〇年三月、旧松前町・北伊予村・岡田村の三か町村が合併して誕生した。現在の人口三万人余りの町である。北伊予地区は町の東部に位置し、水稲や蔬菜栽培の盛んな農村地帯である。地区内には昭和五（一九三〇）年に開通した予讃線が走っている。

明治九（一八七六）年には、全国の道路を国道・県道・里道に区分し、国道は幅七間（一一・六メートル）と決めた。町内には昭和四〇年三月に一般国道となった五十六号（旧大洲街道）が貫通し、北伊予地区に関係する一般県道は「八倉松前線」（旧松前街道・子聖道、バイパス開通前の町内延長五〇五五メートル）。この地区内を東西に貫通する幹線道路は、早くから幅八尺（約二・四メートル）であったが、大正一三（一九二四）年に改修工事が始まり、昭和四（一九二九）年に県道「原町松前線」として竣工した。現在永田地区には、旧道に昔の八尺道の面影が残り、一部はバス路線にもなっていた。現在神崎地区の密集地を避けたバイパスが開通し、「松山伊予線」と直結した。

その他、「砥部伊予松山線」（同四三五〇メートル）、「北伊予停車場

線」（同七八メートル）があり、町内の中川原から伊予市上野に至る主要地方道「松山伊予線」（バイパス開通前の同二二六・二二メートル）がある。

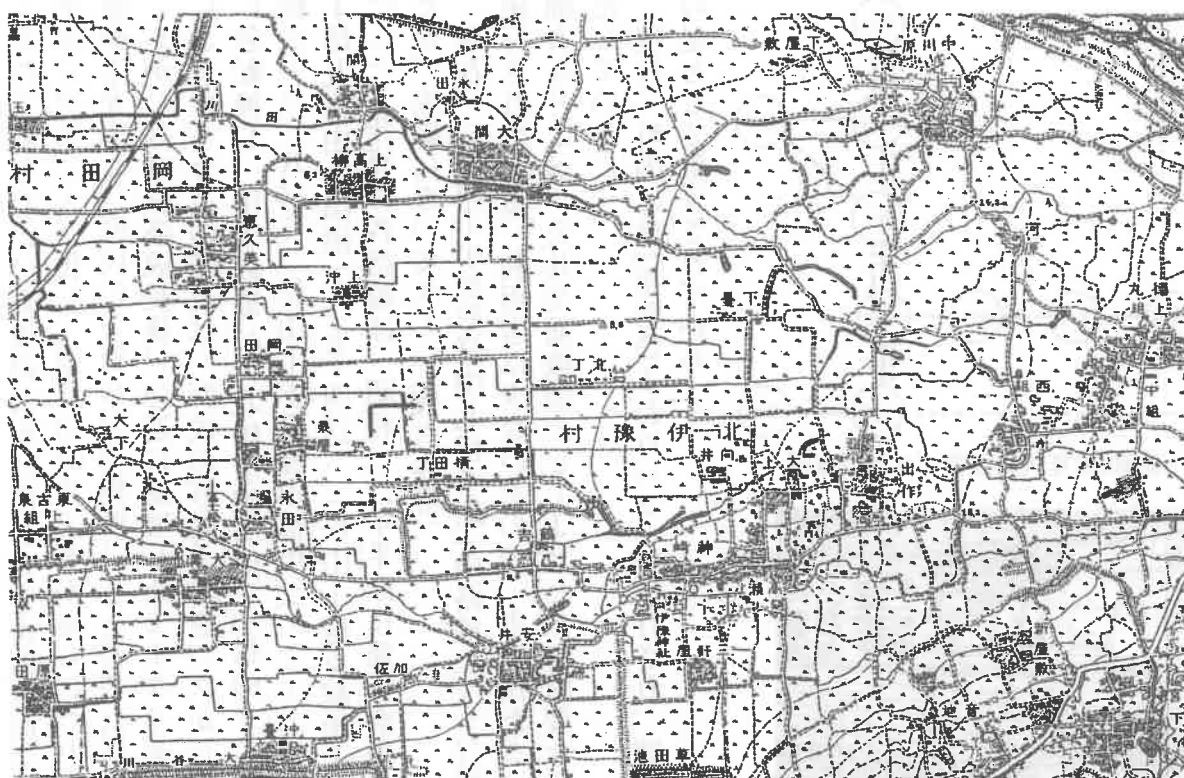


図1 北伊予地区を中心とする2万分の1地形図
（明治36年測図 同38年印刷発行 大日本帝国陸地測量部 原図を65%縮小）

る(図2参照)。その内、かつてこの地方の「往還」と呼ばれた道路は「松山伊予線」と「八倉松前線」にあたるが、中川原から徳丸經由出作までの道路は町道であるが「往還」としての役割を果たし、人家は道路に沿って延び、列状の集落を形成している。

一方、庶民の足として親しまれた伊予鉄道のバス路線について



図2 松前町内の主要道路図

- | | | |
|-------|---------|-----------|
| 国道 | ① 56号 | |
| 一般県道 | ② 八倉松前線 | ③ 砥部伊予松山線 |
| 主要地方道 | ④ 松山伊予線 | |

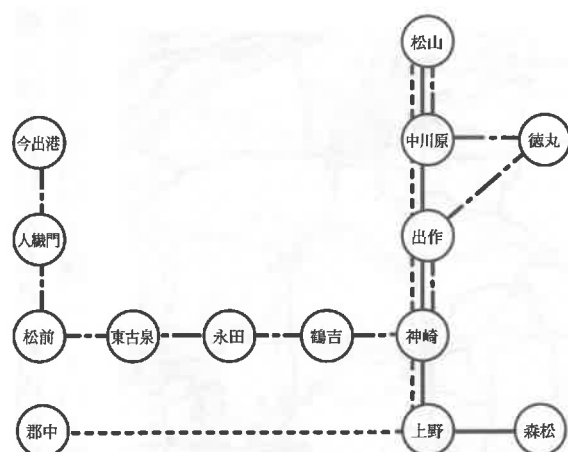


図3 昭和30年代の路線バス運行状況



写真1 懐かしいボンネットバス

てふれておきたい。戦後経済が回復し安定を取り戻すにつれ、車両も次第に大型化し、道路の改良工事が進むにつれてバス路線網も充実し、庶民の手軽な交通機関として急速に発展した。

しかし高度経済成長後、急速に進展したモータリゼーションによるマイカーの普及は、庶民の移動手段をバスから自家用車に急転換し、伊予鉄道バス北伊予線の内、「松山―上野經由森松」(一三・八^三・八^三)、「松山―上野經由郡中」(一三・三^三・三^三)、「松山―徳丸經由今出港」(二五・四^三)、「松山―徳丸經由人織門前」(二一・九^三)の各路線は、昭和二〇年^{なか}半ばに運行許可がなされたが、廃線になって久しい(図3参照)。

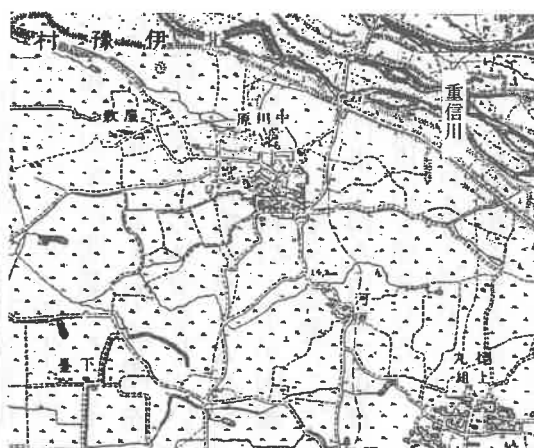
現在、「松山―小松原經由北伊予駅」の路線(六・六^三)のみが運行されている。利用者は少ないものの、車を持たない人や高齢者などには、公共交通機関としてJRと共に重要な役割を果たしている。

現在、町内には「松前ひまわりバス」が運行され、買い物などの足として重宝されている。

二 各地区の家並みの移り変わり

(二) 中川原

1 地区の概況



中川原地区 (明治36年測図)



旧県道 (左) とバイパス (右) の分岐点

北伊予の北東にあり、北は重信川南岸、東と南の一部は徳丸に接し、南西は出作に接する。平成二五年一二月末現在、四五八世帯・一二一五人である。

幹線道路の変遷を昭和三〇年頃の地図と現在とで比較してみると、重信川南岸に東西に走る農免道路ができたこと、主要地方道「松山伊予線」のバイパスができたことである。調整区域ということもあり、新宅などが少し増えたこと、バイパス沿いにコンビニ等の店舗ができたことなどの変化が見られる。旧県道においては現在もバス路線があり、二つのバス停留所がある。これは生活と密接な関係がある。昭和四五年八月から平成八年四月の間は、徳丸を経由する路線もあった。

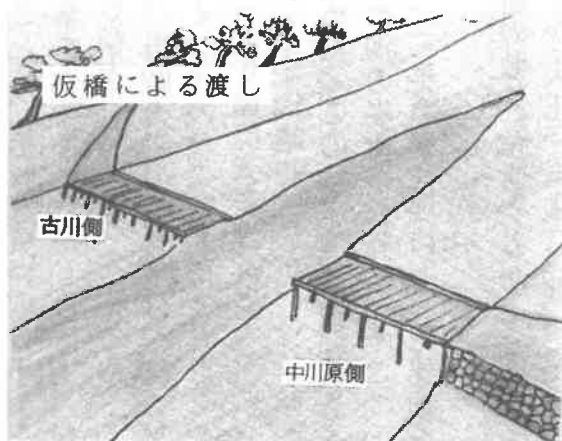
重信川に架かる中川原橋に

ついてふれたい。大正一〇年頃に仮橋を架けることとなった。その後この仮橋は郡に移管したが、多くなる交通量に耐えるには貧弱となり、村長を中心に県へ中川原橋建設を働きかけ、昭和五年に鉄筋コンクリート製の橋が完成した。現在の中川原橋は、昭和五四年一月に開通、その後、県道のバイパスが平成四年四月供用開始となったが、朝夕は慢性的な渋滞を起こしている。

2 家並みの移り変わり

中川原には豆腐屋・酒屋・精米・製粉(製麵所)・クリーニング店・洋裁店・大工・建具屋・鉄工所などの商店や事業所が数多くあった。昭和三〇年前後の様子を数名の方から聞き書きした。

まず、ガソリンスタンドについて三好浩一さん(昭和三二生)に聞いた。「昭



仮橋による渡し (左) と明治・大正時代の重信川堤防河川敷 (右)

『ふるさと』加藤敏之著 (昭和59年9月発行) より

和三一年に現在の中川原バス停留所前にて父が起業し、その後昭和三二年に現在地へ移転した。当時は混合油・石油・軽油・重油などが多かった。重油はボイラー用燃料としても使っていた。昭和三五年に最初の地下貯蔵タンクを埋設、その後昭和五七年に更新埋設し現在に至っている。」と言う。

日用雑貨店について藤田チドリさん(大正一四生)は、「昭和二四年に開業した。それより前、主人が油関係(菜種油製油)の事業をしていたが、菜種栽培を行う人がやめてしまい材料の入手が困難となり二、三年で廃業した。製油の仕事で得た資金で現在の日用雑貨店を開業した。」

当時の資本金は五〇〇〇円。仕入れは卸屋さんが三輪車で納めに来ていた。」と言う。

精米所について藤田信子さん(昭和七生)は、「昭和二六年頃、北伊予農協が経営していた精米所(農協倉庫敷地内



現在の中川原バス停留所付近(手前は旧県道)



中川原バス停留所付近の秋祭り風景(昭和35年頃)



タバコを販売していた店頭と町合併祝賀の横断幕(昭和30年)

にあった。)を手放すということで、それを買取り事業を開始した。当初、主人の兄と事業をやっていたが、後に主人が事業を引き継いだ。精米の外にも精麦・しやぎ麦(麦飯用)や、きな粉・米粉などの製粉をしていた。当時の米の搗き賃は一俵(六〇銭)五〇円であった。近くにコイン式の精米所が増えたことや後継者がいないことなどで平成一九年頃廃業した。」と言う。

理髪店について酒井サダ子さん(昭和一〇生)は、「昭和三一年中川原バス停留所前で始めた。この建屋には石油店も入っていた。その後、昭和四一年に別の場所へ移転し、そこで一〇年程営業した。更に昭和五二、三年頃現在地にあった建物を購入し移転した。」と言う。

中川原には二軒の紺屋(紺屋の藍染)があったが、そのうちの一軒の紺屋について松嶋操さん(大正一五生)に聞いた。「起業は昭和一〇年頃かと思われるが、昭和一二年に日中戦争が勃発し、その影響で藍染の原料や製糸・燃料(石炭)が入荷せず廃業した。」と言う。

日用雑貨店を営んでいた加藤勇さん(昭和五生)に聞いた。「事業開始は今から九〇年くらい前の昭和初期頃と思う。父が起業した。塩・酒・たばこ等の専売品や日用雑貨を扱っていた。戦時中、酒類販売規制ができ免許が必要となったが、北伊予には五軒の酒店があり免許取得にひと苦労した。」

昭和三十一年頃免許取得し取り扱い開始した。当時ビールは今ほど売れず、合成酒（大正七年の米騒動を機に開発された、清酒風アルコール飲料で、アルコールに糖類・アミノ酸等を混ぜたもの）が多かった。清酒は高く売れなかった。」と言ひ、また「私の店は西中川原バス停留所でもあるが、切符は扱っていなかった（東の中川原バス停留所は扱っていた）。当時のバス路線には、上野・森松方面、郡中方面、松前・今出方面などがあり通勤通学などで多くの人が利用していた。」「昭和四三年精肉部門を開設した。昭和五〇年代には自動販売機を設置した。ビール・タバコなど好調に売り上げたが、時代の移り変わりに早めの見切りをつけ平成一八年に廃業した。」と言う。

さらに三好悦男さん（昭和一六生）から製材業について聞いた。「昭和二五年、大工だった父が起業した。当時は木を挽けば挽くほど売れ、どの業界も非常に景気が良かった。まだダンボールのない時代で当初は佃煮などを入れる木箱材の加工が多かった。おがくず・木の皮・木端など燃えるものはすべて利用し、捨てる物はなかった。その後油が入り、一般家庭ではプロパンガスの時代となつてどんどん生活様式は変わっていった。」また、「当時使っていた大型トラックは非常に珍しく、大字の牛を運んだり、面河（おもご）にキャンプに行く時は荷台に皆を載せて行つた。」と言う。さらに「旧製材所の前に『製材の池』があり、その水で歯磨き、顔洗いをした。野菜や米を洗ったり、生活用水の代りに使っていた。」と言う。

昭和三〇年頃の主要道路を地図で見ると、県道（バス路線）を中心に事業や商売が栄えていた。通勤通学や城下（松山市）へ行く人など多くの人がバスを利用していた。椿さんの時には、南予方面の人は北伊予駅からギユウギユウ詰めのバスで古川まで移動していた。上野（伊予市）や黒田（松前町）辺りからは徒歩・自転車である人も多かったので、行き交う人々の話し声に活気

を感じたものだ。また、徳丸の輪越祭の日の夕方になると、地区の人や大間地区の人が大勢歩いて参拝に向かっていた。中川原には今も常夜燈が残っており、本体には「石鉄山・高忍宮・金毘羅」の九文字が刻まれている。徳丸にも常夜燈があるので、徳丸に続く道路を「往還」と呼ぶ人もいる。ほとんどの家は農家であるが、雑貨店が二軒あり、また松前や郡中（伊予市）から魚や乾物を行商人が自転車で売りに来ていた。大きな建物は製材所と農協倉庫である。「製材の池」や「上本多の池」があつたが、埋め立てられてしまった。前述のとおりバイパスができ、旧県道を走る大型車両は激減した。現在松山市の外環状線インターの工事が進んでいる。

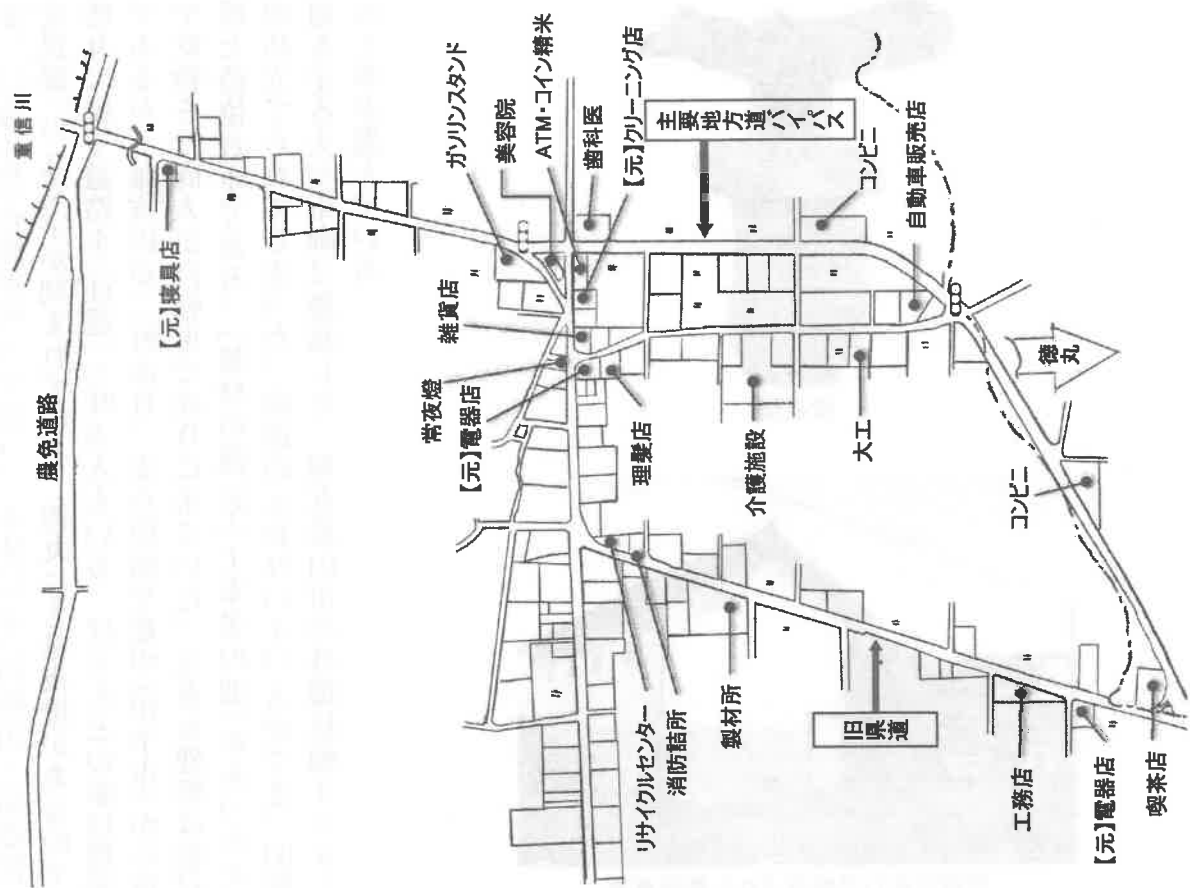


常夜燈

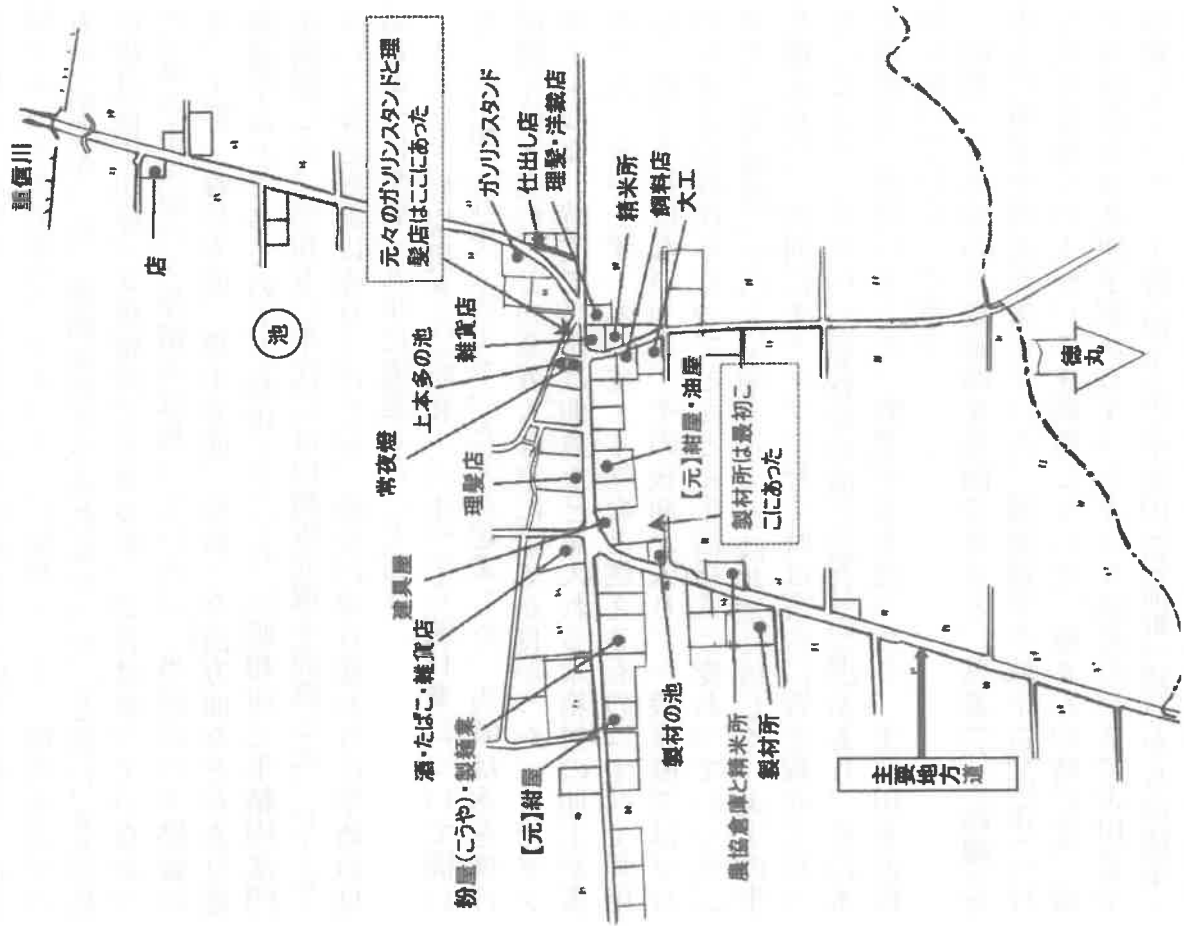


平成8年11月解体された農協倉庫

平成25年の家並み



昭和30年頃の家並み

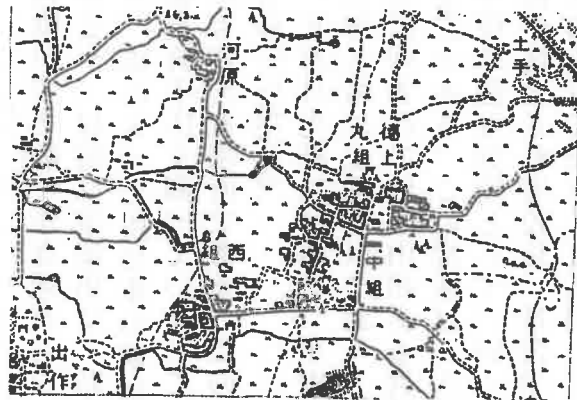


(二) 徳丸

1 地区の概況

徳丸の幹線道路は中川原から入って徳丸の中心部を一回りして出作に至る町道である。北伊予地区の最東部に位置し、主要地方道「松山伊予線」の東に広がる地域であり、昭和三〇年代には一七一世帯、九一五人であったが、平成二五年末現在では五四八世帯、一四一九人となり、新たにハウス工場跡地に一四軒が建築中で、新しく団地ができるように閑静な住宅地となっている。一時期伊予鉄道の路線バスが運行され、幹線道路が一部変更され整備されたが、現在マイカーの普及等による利用客の減少により廃線となり、現在町内周りの「松前町ひまわりバス」が運行されているだけである。

徳丸には往昔、推古天皇元年（五九三）頃、高忍日売神社がすでに存在したといわれている。その周辺の揚土といわれる地名の所に集落が形成されたといわれている。またこの地域は古来水利に恵まれず用水源を重信川の表流水と上流地域からの分水に頼っていたため、夏期渇水期には水不足



徳丸地区（明治36年測図）



暗渠記念碑（神社境内）

となり周辺地区との紛争が絶えなかった。そこで、重信川北岸の井門村に新泉（北泉、南泉の夫婦泉）を掘り、重信川南岸の堤防に水路を掘って引水していた。しかし毎年の洪水による流失に悩まされていたため、後に暗渠敷設（Ⅱ重信川の河床に土管を埋め引水。神社境内に記念碑がある）による水源確保がなされるなど、重信川とは切っても切れない関係にある。

2 家並みの移り変わり

徳丸の入り口は河原組といい中川原に面し、重信川改修以前はよく洪水に見舞われた地域である。ここから東に向かうと徳丸集会所がある。ここは以前、泉の元と呼ばれる泉池であった。この辺りは出口組といい徳丸の入り口に当たるが、出作から入った場合は出口にあたる。この辺り一帯は田園風景が広がっていたが、昭和五〇年代には建築工場、資材置き場や民家が次々と建ち並び、また、近辺には団地ができて人口が急激に増加した。出口組は以前より小字として民家が密集し、雑貨店や酒店もあった。昭和三〇年頃はほとんどが農家であり、現在も納屋付の大きな門構えの家が並んでいる。なお東に進むと千防組に入り、道の左側に旧家が並び大きな屋敷が続いていた。次の角には常夜燈があり、表には「金・高・石」と横に刻まれている。「金」は金毘羅宮、「高」は高忍日売神社、「石」は石鎚神社の頭文字であって、裏に文化一一（二八一五）年八月と刻まれ、組中の安全の願いが込められ信仰の対象になっていた。昔は千防組の各戸が当番で夕方になると燈明皿に種油を注ぎ、燈心に灯を点じ、



常夜燈前の幹線道路

手を合わせ心から拝んでいた。その東奥に元の田中組(現表組、裏組)があり、徳丸の中でも最も大きな集落が広がっている。常夜燈の北東角は、戦前は鍛冶屋があり農家の鋤・鍬を始め農機具の販売・修理をしていた。戦後、雑貨店になったが今は民家となっている。

ここより幹線道路(往還)は南に向かい右手に墓地が広がっている。以前は墓地を過ぎると田んぼが広がっていたが、現在は



高忍日売神社前の幹線道路

自動車修理工場や民家が建ち幼稚園ができ賑やかな通りとなった。次の東角にガスの販売店があるが、以前は電器店で、昭和三〇年頃は製粉・製麺所であった。南に入った所に車の解体・中古部品販売会社ができ、海外輸出等手広く商っている。この地区は戦後の生活事情の変化が最も窺える場所である。このまま真直ぐ南に進むと県道「松前八倉線」に達する。

この角を西に向かうと、直ぐに高忍日売神社がある。平安時代に延喜式内社に列せられ延喜式神名帳に記載されており、産婆・乳母の祖神、安産の神として信仰されている由緒ある神社である。西隣に徳丸老人「憩いの家」がある。この場所は、古くは明治六(一八七三)年、墨水小学校の徳丸分校として、同一三年には開達小学校、その後小学校が統合され廃校後、補習学校夜学会や徳丸補習学校として徳丸の教育の場として活用してきた。その後一時期、公民館として使用され、近くに消防詰所もあり半鐘台がたっていた。道路を隔てて西に本性寺があり、この北一帯に中組、宮浦組が広がっている。田んぼを挟んだ南に

は墓地があり、現在は東隣にコミュニティ広場ができて、住民の憩いの場となっている。西に進むと元の西組(現、南一組)に入る。この付近は幹線道路が新道路に変更になっている。以前は西突き当たりを南に折れていたが、現在は途中から斜めに南西に進み、旧道と合流するようになった。以前の道路を行くと、突き当たりの右に大きな門構えの家があり、戦前は造り酒屋であった。西北角に昭和時代まで

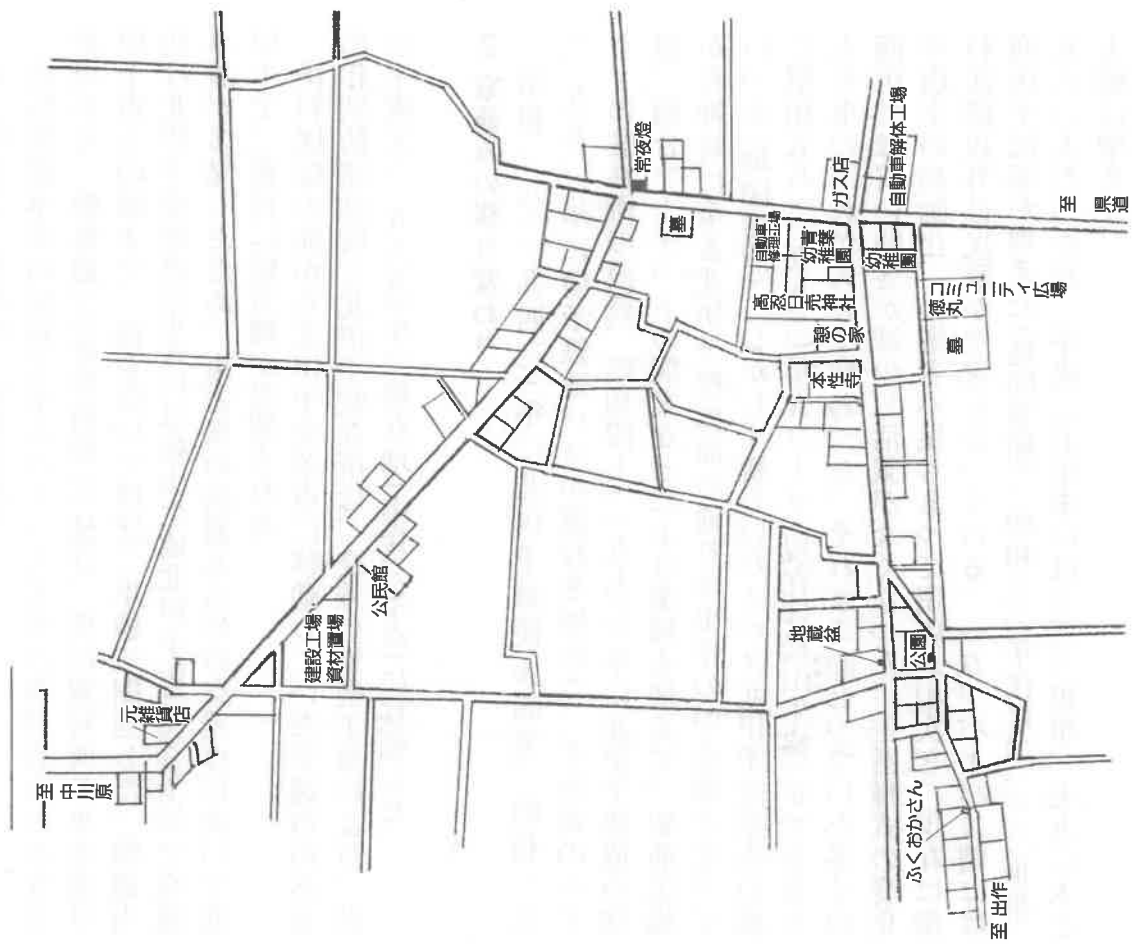


新しい幹線道路(左)と旧道の分岐点

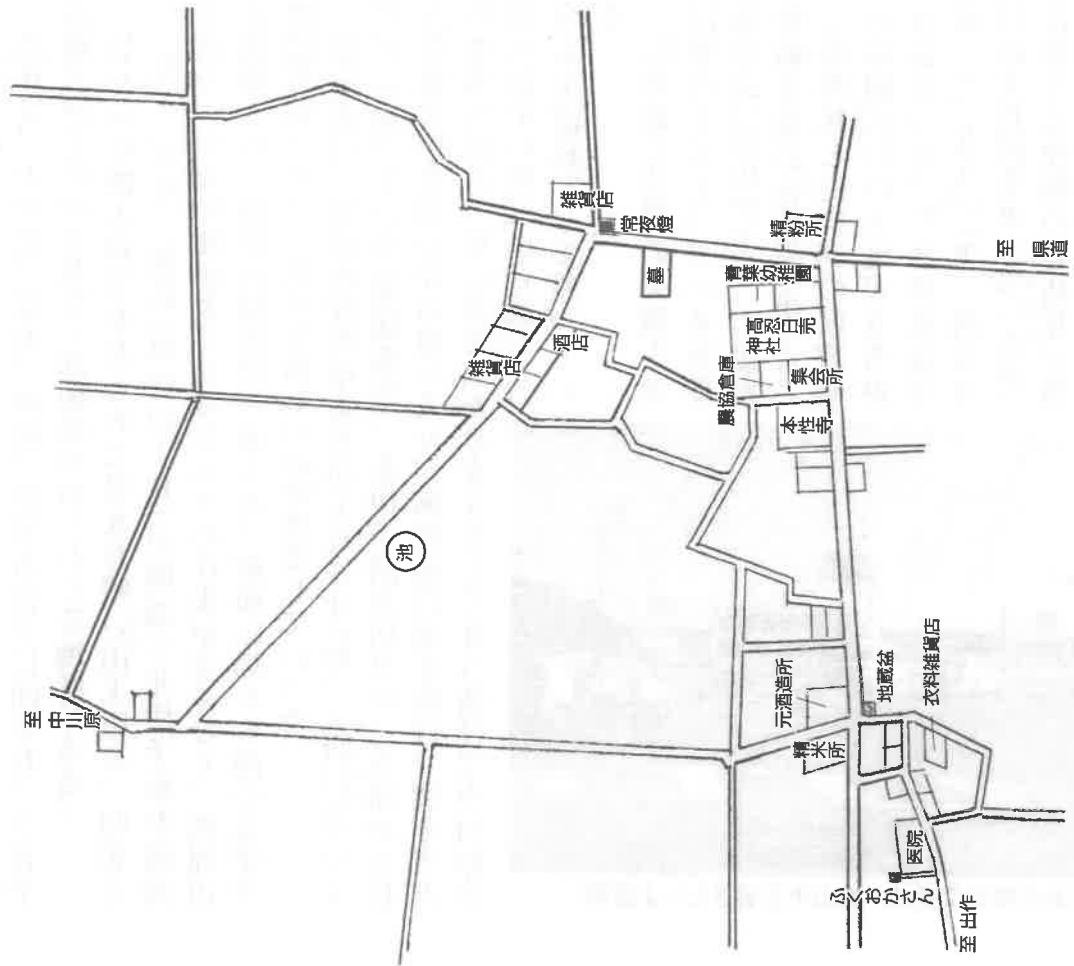
精米所があったが、現在は民家となっている。道路の北堀に「地藏盆」が祀られている。南に行くと遊園地がある。幹線道路はこの四つ角を西に向かうが、南には昭和五〇年代に団地(出刈西組)ができている。以前は一軒衣料・雑貨店があった。幹線道路は西に向かい徳丸の最西部に出る。以前は西組の西端に大きな屋敷があつて、ここが当時医院で校医であつた。道路沿いに南向きの祠がある。祠は「ふくおかさん」の愛称で呼ばれ、食糧を司る神で享保年間の凶作(義農作兵衛が餓死した)の頃、保食神として敬われていた。昔は医院の西北隅に木製の立派な社があり、毎年九月に高忍日売神社の宮司を招いて祭礼がなされていたという。昭和三〇年頃はこれより先、出作まで一軒の家もなかったが、現在はこの辺りに団地(南二組)ができ賑やかになり、出作まで民家が建ち並んだ。

マイカー等交通の利便による松山方面への客の流出と町内の大型ショッピングセンター「エミフルMASAKI」などの開設により地区内の商業活動は衰退していった。

平成25年の家並み



昭和30年頃の家並み



(二) 出 作

1 地区の概況

出作は、中川原、徳丸、神崎、伊予市宮下に囲まれ、JR予讃線北伊予駅の東及び一部線路の西にわたる地区である。

竹やぶや雑木林でおおわれた昼なお暗い山王原に、昭和五(一九三〇)年、国鉄(現在のJR)が開通し北伊予駅が開設された。交通の便がよくなると人々の往来が多くなり、駅周辺は開発され、出作の様相は一変した。駅前広場から南の北伊予踏切方面にかけ、次々と新しい店が開業していった。

旧街道は、ほぼ出作の中央を巾七尺八寸(約二・四m)でジグザグに通っていた(地図参照)。北伊予踏み切りの三叉路から松山生協北伊予店の北の道へ入り、郵便局の裏を抜け、突き当たりを東へ折れ、更に突き当たりを左折して北へ抜けて中川原方面へ向かい県道に合流した。今も生活道として残っている。

旧街道(往還)の東側をほぼ平行して走っている主要地方道「松山伊予線」の道路整備事業の拡張工事では、二名神社と吉祥寺の県道側の巾約六mの土地が立ち退きとなった。二名神社は平成二(一九九〇)年、西入り口の大鳥居を東へ曳いたが、吉祥寺は建物の老朽化が著しいために取り壊しとなり、平成四(一九九二)年に新築



2本の県道交差点(松山市生協きたいよ店前)

された。それに伴い公民館は取り壊され、平成六(一九九四)年に集会所として現在地に新築された。

道路整備事業の延長工事とバイパス工事は吉祥寺南の出作交差点から一般県道「八倉松前線」へ延び、更に製材所の東を通り伊予市との境まで一部を除いてほぼ二車線で開通した。開通当初は北伊予交差点(正式には松山生協北伊予店前交差点)で交通事故が多発したため、東古泉の国道五六号の交差点に次いで北伊予で二番目に信号機が設置された。

歯科医院の前から北伊予交差点に移動していた半鐘台のある出作消防団詰所と北伊予駐在所は、交差点整備工事により、共に平成元(一九八九)年に現在地(出作交差点)に移転した。

2 家並みの移り変わり

昭和一八(一九四三)年に北伊予郵便局開業。昭和二五(一九五〇)年に伊予鉄道バスが運行を始めた。その後のハイヤーの駐在所の設置、昭和四七(一九七三)年に北伊予農協の移設、組合マーケットの開業などにより業種も増えて、駅前広場から神崎に至る北伊予農協前の通りは出作の中心地となっていた(地図参照)。しかし、新しいバイパス北伊予交差点の脇に昭和五八(一九八三)年Aコープ(現在は松山生協)ができる人と人や車の流れが大きく変わった。それまで賑わっていた多くの商店では買い物客が減少し活気がなくなった。生活様式の変化や店主の高齢化、後継者不足もあつて閉店が相次ぎ、現在は歯科医院以外は民家か空家となつていく。一方、バイパス側には商店や民家が増えた(地図参照)。昭和三〇年代には一二〇世帯、五八〇人だったが、平成二五年末には三三三世帯、七九〇人と大幅に増えた。

水口憲三さん(昭和一二生)に話を聞いた。
農協前の通りに子どもに人気のあつたお菓子屋さん、通称煎



駅前広場の盆踊り（昭和30年代 稲荷正恵さん提供）

餅屋さんがあった。それはおいしい煎餅だった。店の入り口近くで店主が一枚一枚手焼きしていた。人気はのり・ピーナッツ・ソラマメ等の入ったのや卵煎餅だった。昭和の終わり頃でも遠方の人から「今でも買えますか。」と尋ねられたこともあった。一代で終わって残念だ。歯科医院の南隣に製粉所があり、近くの農家では収穫期に小麦をまとめて店へ預けておき、そうめんやうどんを食べたい時に受け取りに行った。雨が降り、農家に時間ができる、よくうどんを食べさせてくれたものだ。店に行くときは感動した。農協の向かいの金物屋（鍛冶屋）さんでは二人が向かいあつて絶妙なリズムでハンマーを打ち下ろしている、火花の散るのをじつと眺めていたものだ。また金物屋さんの隣には、親子二代の畳屋さんがあり、家の中を覗くとイグサの匂いがプーンとして好きだった。材料から製品にする手際の下さに驚いた。雑貨屋さん、キャンデー屋さん、クリーニング屋さん、散髪屋さん、薬屋さん、他にもいろいろな店があつて賑やかだった。

山本勅子さん（昭和八生）は、次のように話す。

出作には大きい広場があったために駅前広場を大きいイベントにはよく使いました。春にはサクラの下で花見をしました。男性は酒を酌み交わし、女性は

弁当を拡げて、世間話に花が咲きました。夏には盆踊りが開かれ、中央に櫓を組み、何重にも輪ができて、それはそれは盛大でした。夜店もたくさん出ていました。秋祭りには大人神輿が出て神崎の神輿と出会うと鉢合わせが始まり、出作が勝つように応援に力が入りました。

松島保さん（昭和六生）は、「松山の病院へ自転車を通ったが、砂利道で風の強い日は土埃がもうもうとあがり、バスの後ろなどはとても付いていけなかった。雨の日は泥水で服が汚れて大変困った。道がデコボコになると、背の高いブルドーザーが中央が高くなるように地面を削りならした。」と言う。

現在の北伊予郵便局長の野村雅章さん（昭和四〇生）は、「昭和一八（一九四二）年開設の北伊予郵便局は、北伊予地区の郵便物の集配業務や電信電話業務を行っていました。昭和三〇年頃は車ではなく徒歩か自転車、風の強い日や雨の日は砂利道のために苦労したと聞いています。」と言っている。



昭和30年代の北伊予郵便局（野村雅章さん提供）



現在の北伊予郵便局と北伊予駅前バス停の伊予鉄バス

(四) 神 崎

1 地区の概況

神崎は北伊予のほぼ中央に位置し、明治に北伊予村の役場が設置され発展し、松前町に合併後も学校、公民館、駅などを有し、北伊予の中心として発展してきた。

昭和二〇年から三〇年にかけての神崎の主要道は県道で、当時の人たちは「往還」と呼んで日常生活に利用していた。

当時、神崎には県道が三本あった。一本は松前から踏切を通って伊予市八倉に至る県道「八倉松前線」、もう一本は伊予市上野から農協の前を通って松山の方へ抜ける主要地方道「松山伊予線」、そしてもう一本は北伊予駅前から松山伊予線までの短い県道「北伊予停車場線」である。ただし、現在では神崎を通る「八倉松前線」、「松山伊予線」は、バイパス開通により町道に格下げとなり、神崎が北伊予で一番県道の少ない地区となっている。

こうした道路も、元々は狭い道路であったが、交通網の発達とともに整備され、特に自動車の発達は大きな変革をもたらした。また、近年開設された「八倉松前線」のバイパスは、松前のショッピングセンター「エミフルMASAKI」への車や、大型トラックの通行などで賑わうとともに、町道となった元の道路も、買物客の自動車などで劇的に交通量が増加している。

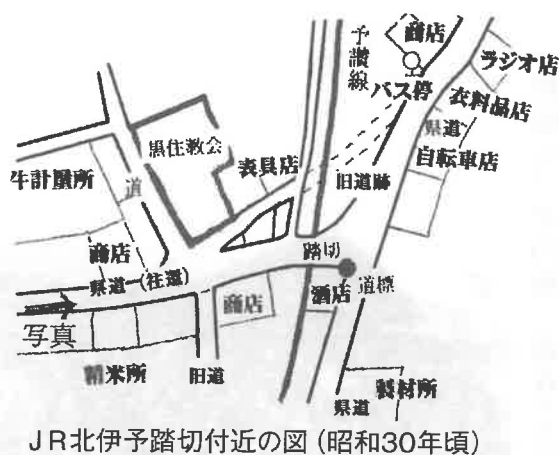
また、昭和五年に松山―南郡中(現伊予市駅)間に国鉄が開通して山王原に北伊予駅が設置され、人の動きは大きく変わった。こうしたことから、神崎の戸数、人口は町の調べによると、昭和三五年の二二二戸、一〇六一人から平成二五年末現在、六一八戸、一五三二人へと増加した。

2 家並みの移り変わり

ここで、昭和三〇年頃を中心に現在の幹線道路沿いの家並み

の移り変わりについて述べたい。

- ① 北伊予駅 昭和五年、念願の国鉄が開通した。場所は神崎であるが、乗り降りの方向は出作である。北伊予だけでなく南伊予の八倉、宮下、上野などから乗り降りが多くて、ラッシュ時には賑わっていた。貨物も西瓜や砥部方面からの鉱石などを出荷していた。
- ② 北伊予農協購買部 この頃は、まだ購買部であった。肥料などの注文を受けていた。
- ③ 北伊予農協の池 防火用水か、周りをコンクリートで囲った池があった。また、この頃、まだ珍しい鯉が飼われていた。現在もそのあとが残っている。
- ④ 北伊予農協醤油工場 道路横の川に添って醤油工場があり、醤油を製造出荷していた。川はいまは塞がれているが、この頃は醤油の廃液が川に流れ込んで汚れていた。



JR北伊予踏切付近の図(昭和30年頃)



現在の踏切付近の旧街道(左)と旧県道(右)

【北伊予踏切付近】

北伊予一の繁華街であった。バス停のある通りは、二本の県道からの人の流入で賑わっていた。また、このあたりの商店は、他所からの移住により店を開いた人も多い。今は経営者の高齢化等で商店は激減している。

⑤ 劇場「神崎座」という名称であった。旅芝居や映画が行われていた。私が行っていた頃は、前は土間にゴザ敷き、その後ろは木のベンチ、ベンチの上に畳敷きの二階席があった。二階席は、左右から上がれるようになっていて真ん中は、映写のため空いていた。屋根の上にやぐら台があり、その日の予告などを放送していた。また、自転車で太鼓をたたき宣伝をしていた。

⑥ 黒住教教会所 輪越しの時は演芸などがあり賑やかで、人が前の道路まであふれていた。普段の日は子どもの遊び場で、前の道路で紙芝居屋が営業をしていた。

⑦ 牛計量所 牛の体重を測るほか、牛の足に縄を絡めて転がして爪を切っていた。

【現在のガソリンスタンド付近】

このあたりも賑やかであった。その後ガソリンスタンドや美容院などもできて、一時期賑わった。ただ現在はほとんどがなくなり、不動産業、マンションができガソリンスタンドと併せて三軒のみであるが、「エミフルMASAKI」への買い物客の車が多い。

⑧ 山王保育所 この場所に保育所があった。わずか三年の間であったが、前の北伊予村役場の建物を移築して運営をしていた。保育所移転後も建物はしばらく残り、獅子舞の練習や社交ダンスの練習場、卓球場などに使用されていた。

⑨ 神崎協議所 今の集会所の役割をしていた。元々は、道を挟んで北側の田んぼの中にあった。そこからこの場所に

移転し、その後、現在この地に建築した。その後、それを売却し、現在の集会所に移った。

【現在の東公民館付近】

元々は、役場、学校など行政の中心的町並みが形成され、そこへ行く人も多く賑わっていた。役場は、行政手続きに行く人が多く、小学校は、そこが正門で児童は通学に必ずそこを通っていた。

農協も預金や共済、それと農業に関する会議などで、多くの農家の出入りで賑わっていた。現在、旧役場の場所は公民館として利用者があつたものの、小学校は北側の中学移転により、その場所に校舎が移転し正門も移転した。元の正門は閉鎖され、わずかに門柱のみ残すこととなっている。農協は県道沿いの線路ぎわに移転し、元の地には住宅が建ち静かな場所となった。

⑩ 北伊予農協本所 二階建ての事務所があり、多くの人が訪れていた。また、周囲にもいろいろな建物があった。

⑪ 北伊予農協肥料工場 肥料の配合をしていた。建物の上



昭和29年頃の山王保育所
(建物は初代の北伊予村役場)

に空気抜きがあった。壁の部分は白塗りであったが、戦争中に白が遠くからわからないように墨で塗っていた。後に北伊予で最初のスーパーマーケットになった。

⑫ 半鐘台 割れたような鐘の音がしていた。火事ときにはすぐにわかった。後に東公民館敷地内に移動した。

⑬ 北伊予小学校正門 大正三年に伊予神社の西から移ってきた。そのとき移設したもので、現在は正門ではなくなつたが、今でも開校のままの姿が残っている。

⑭ 北伊予小学校本館 正門のソテツの木の後には本館があった。大正時代の建物で、玄関は半円形の石段を上がつた所にあった。

⑮ 北伊予小学校講堂 昭和一一年建築の二代目講堂は、左は土間で渡り廊下が敷いてあり、右に上がると室内で、正面に舞台、床は板敷で天井には模様があり立派であった。なお、東側には小山があり、かつて奉安殿があった。

⑯ 池 小学校敷地の南西に切り石積みみの池があった。元は近くに消防用の小屋があり、その基礎が残っていたので、防火用水の池であったのかもしれない。近くにメタセコイヤの太木があったので、児童たちは、その木の松笠ができると、その一片をはがし、池の水に浮かべ、ヤニの反発力で走らせて遊んだ。

⑰ 北伊予村役場 この時代の役場は、左右対称の議事堂様式をしていた。一階は事務室で、二階は議場などに使われていた。また、裏には小さな池を囲むように建物があった。昔には、敷地に入って左側に前代の北伊予村役場の建物があったようである。また、役場敷地の北西隅に大きなムクノ木があり、道路にややみ出ており、ここにバス停留所があった。地域住民はこの木の上に「お袖タヌキ」が住んでいるといっていた。元々この木の横のお宮の方への道はな

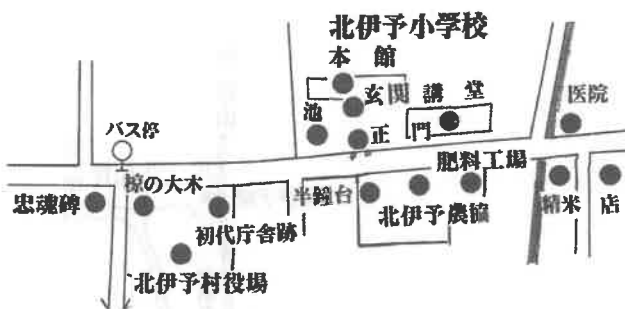
く、役場の前から斜めに忠魂碑の前の方への道があったようである。

⑱ 忠魂碑 元は、この場所に和霊神社の社があったようである。戦没者の慰霊碑ができ、永田の中村少将が表の文字を書いている。

⑲ 晴光院 元、伊予神社の神護別当寺であったといわれており、七堂伽藍が完備し、塔頭一二寺を有する大寺院が、今の伊予神社の西にあったとの伝承がある。

なお、この寺の裏の墓地に、巨大なマツの木があり、神崎の名物の大樹であったが、火災により焼失した。

⑳ 伊予神社 延喜式内名人大社で、旧県社の由緒ある神社である。境内に遺跡の「入らずの森」があるほか、謎を秘めた池もある。

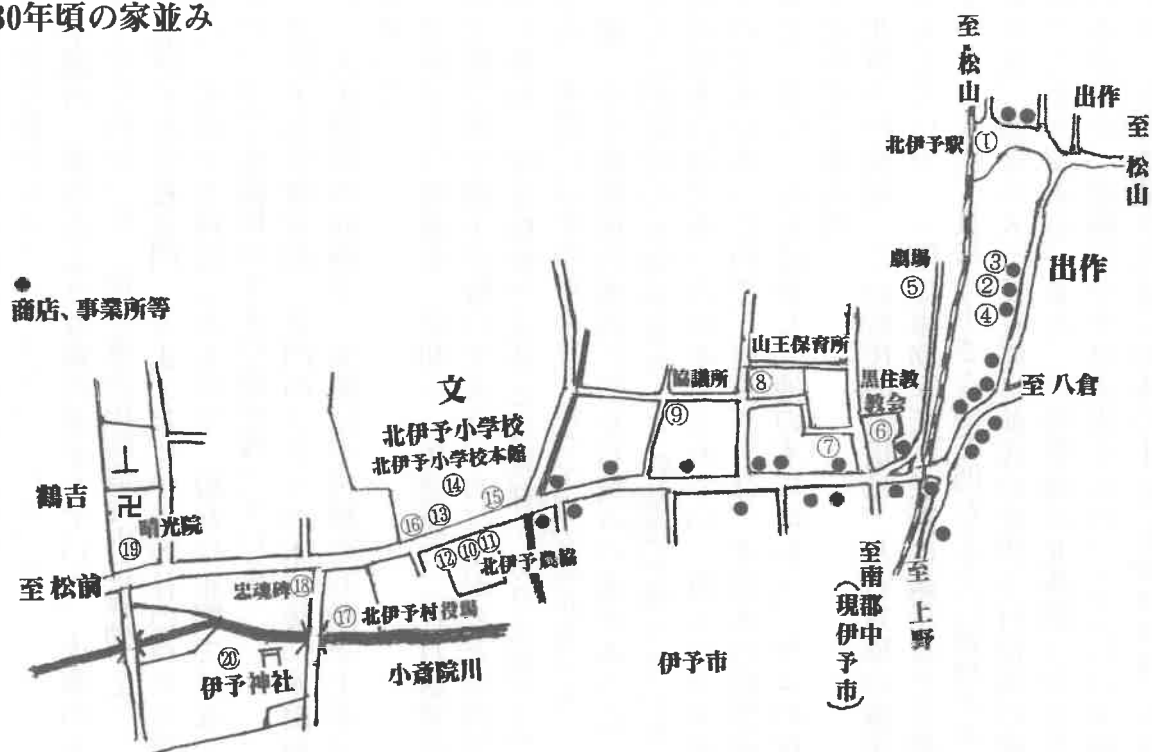


旧北伊予村役場付近の図 (昭和30年頃)

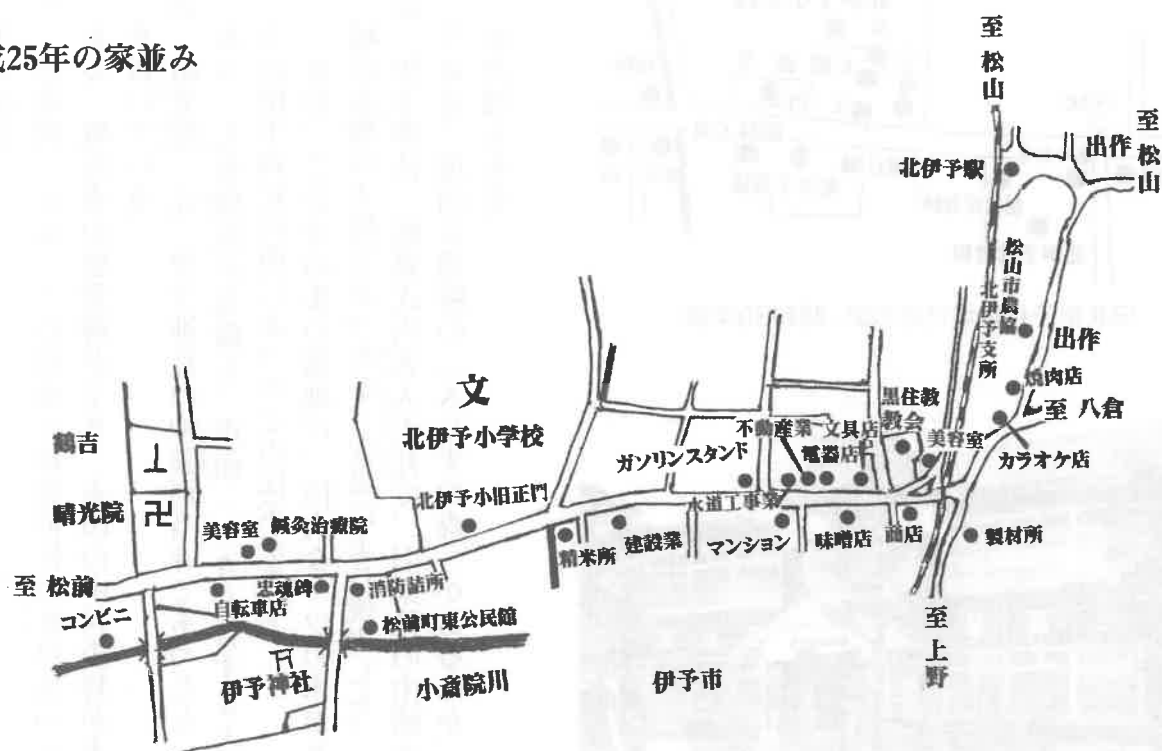


昭和13年新築された旧北伊予村役場
(現在 松前町東公民館が建つ)

昭和30年頃の家並み



平成25年の家並み



(五) 鶴吉

1 地区の概況

北伊予のほぼ中央にあり、地区の南東から西へ長尾谷川が流れている。この川は鶴吉で数多くの自然湧水と連なって水を貯える神取泉群(神取泉用水)を作り、下流域の横田・大溝・永田・東古泉、松前の黒田・浜・筒井や岡田の西古泉の米づくりの重要な用水源になっていた。これらの泉床(せき)や井手(いであ)は昭和四七年の長尾谷川改修まで続いた。長い間、米麦の水田農業地帯であったが、終戦後イチゴのトンネルやビニールハウス栽培等が見られ始めた。昭和三五年(国勢調査)の世帯数一二三戸、人口六三七人で北伊予では中規模集落であった。

鶴吉の大きな旧道は二つある。明治三六年測図の地図が示すように、一つは晴光院西数十^{メートル}先から御旅所(おたひよ) (秋祭りに神輿が伊



鶴吉地区の要部 (明治36年測図)



現在の地図 (平成25年)

予神社から出て仮に座(す)わる所)へ向かう旧道(往還)、他は安井集落を縫う道である。この道は、角店(かどみせ)がある四つ辻(最近信号が設置された交差点)から三百^{メートル}南下し、神取橋(かんどり)を渡り常夜燈から右折して安井の真ん中を通り、賀佐(がさ) (古くは加佐)、横田に通じる道である。

次いで県道「八倉松前線」についてふれたい。晴光院の西隣から鶴吉地区になり、この旧道は明治三六年測図の地図のように御旅所(おたひよ) に向かう道(往還)と本村上組の家並み沿いに西進する二本の道に分かれていた。後

年、この中間地点を新県道が貫き、四つ辻手前で旧道と合流して、昔の水車精米所前を通って整体所先まで鶴吉分が続く。当時は道幅が狭く土ぼこりがする砂利道で、道に沿って北側は用水路と家並み、南側は小川・田のあぜの順に接していた。

2 家並みの移り変わり

県道沿いの家並みの移り変わりを佐賀恵さん(大正一三^{年生})、松田英一さん(大正一四^{年生})、西村倭子さん(昭和四^{年生})、大政小折さん(昭和九^{年生})、大政吉久さん(昭和一一^{年生})外数名に聞いた。

本村集落はこの往還沿い三〇戸足らずで、道より南に民家は角店



再建された角店と薬師堂付近 (昭和29年)



鶴吉の水車精米所 (昭和初期)

と御旅所横の二軒だけで、集落の規模は鶴吉の中心集落安井には及ばなかった。

県道の四つ辻には、昔、宮島神社（一ノ宮神社）、大庄屋などがあり、昭和一〇年頃薬師堂が移設された（昭和三〇年頃の地図参照）。

角店は昭和初期には見られ、代々店主も代わり（昭和二九年頃再建）、店内に何でも並べて売っていて、子どもやお年寄りまで広く知られた店（雑貨屋）であった。また昭和二二年頃店隅で散髪屋が開業し、昭和二四年向かいに新築営業した。角店の一部で縫い物教室が開かれていた。さらに県道北側には安井から動力線（高圧二百ボルト）を引いて製粉所と製縄所ができた。縄は、この頃、郡中（伊予市）の花かつおの箱締めや農家の俵締め用など需要が多く、利用客の出入りも多かった。さらに角店の南隣には借家と新しく精米所ができた。角店の筋向いには別の雑貨屋もでき、伊予鉄道バス北伊予經由松山―今出間が開通して鶴吉バス停留所にもなった。その店は化粧品等の販売やデパートの小荷物配送もするようになった。

昭和三五年頃の民家の大半は農家で自給自足に近い生活を送っており、日常生活必需品は、近い店へ子どもが遣いに走った。販売していない饅頭、酒、衣料品、農機具等は神崎、出作や郡中等へも出向いた。豆腐・うどん・饅頭は加工賃を払えば原料の大豆・小麦と物々交換できた。また燃料として、冬に付近の山の雑木を共同購入して伐採・運搬して一年分のマキや薪（木の枝の先）を作っていた。

この四つ辻に来た客はいくつかの用事を掛け持ちし、用が済むまでの時間、店主やお客同士の交流を楽しんだ。同じ頃、借家には鶴吉関係の人らが新築までの間、仮住まいした。洋服・和服の仕立屋や昭和三五年のうどん・氷・酒屋もそうであった。これらの周辺部には三九年鉄工所、松山青果市場向けの「野菜集

荷場」もできた。四三年に北伊予農協の鶴吉農業倉庫が完成した。何年かして、その一角にイチゴ集荷場ができた。また、黒田病院が開院したし、大工、左官、住宅設備の自営業がみられた。五二年自動車整備工場、五五年喫茶店が開業した。特に角店は、地の利を得た場所だったので生活必需品を売る店も長い間続いていた。

終戦後、動力脱穀機・耕耘機を初めとして農作業の機械化が進み、狭い人道・牛道・リヤカー道は水田の基盤整備事業で拡張され、農道や車道になった。

前述の四つ辻の家並みが変わったのは、松山市へのマイカー通勤、大型スーパーマーケットの増加、木箱や縄からダンボール箱やビニールひもへの変化、カタログ通信販売の出現、昭和四八年頃の松山―人織門間の路線バスの運行廃止などが考えられ、個人商店は現在見られなくなった。

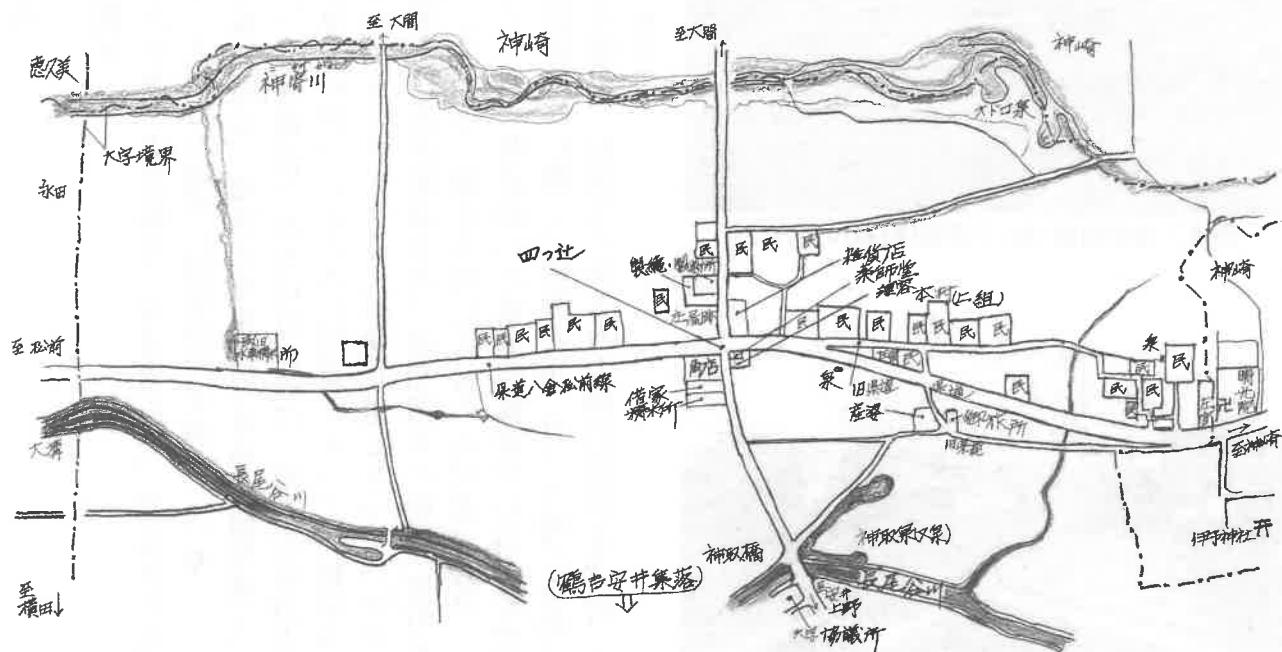
県道「八倉松前線」は自動車の通行量が増え、車輛が大型化して通行しにくく危険になった。それらの解消や安全のために道路改良の度に片側歩道やバイパス道路を貫通させた。特にバイパスは三本の国道並びに高速インターへのアクセス効果が大きい。また四つ辻は、町道（岡田大間・伊予市上野間）と直交しており、JR車輛貨物基地移転に伴う松山、伊予市方面への要道になると思われる。

平成二五年一二月末の世帯数は三一八戸、人口八五七人になっているが、空き家はほとんどない。

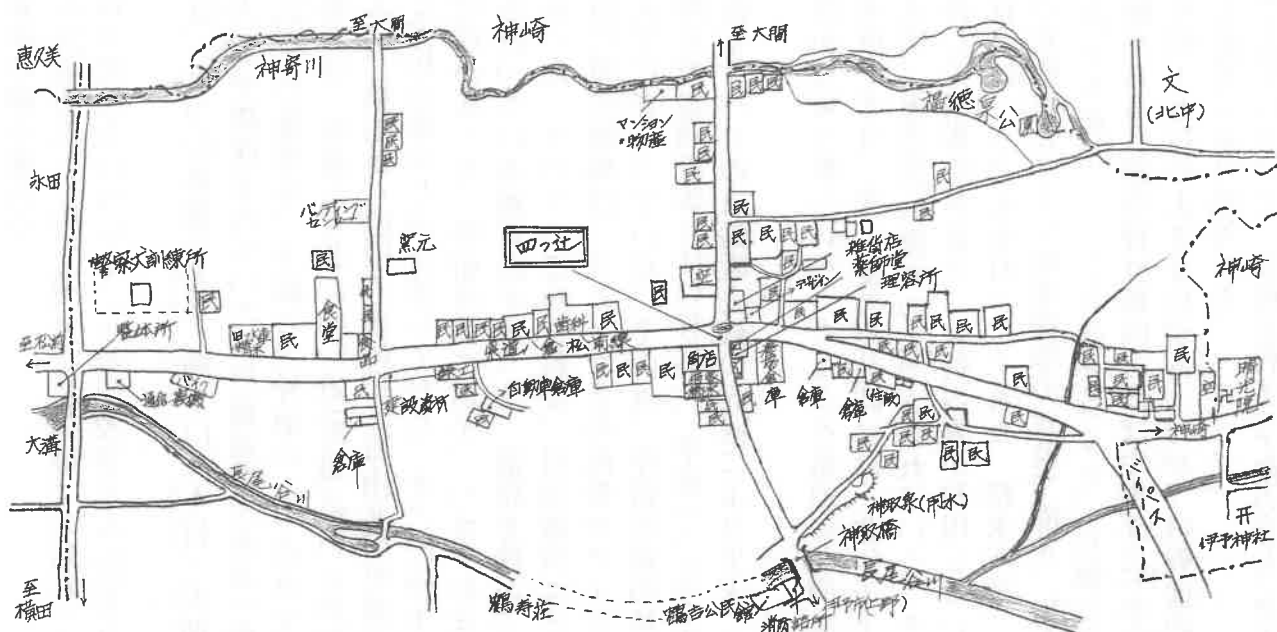


現在の県道八倉松前線（右）と旧県道（往還）

昭和30年頃の家並み



平成25年の家並み



(六) 永田

1 地区の概況

現松前町の中中部、東は鶴吉、西は東古泉、北は恵久美、南は大溝に接し、大溝との境界に長尾谷川が流れている。

永田の幹線道路は、地区内を東西に走る一般県道「八倉松前線」であるが、鎮守神社のある付近だけは、現在の県道より北の鎮守神社の境内に沿ったところに旧道があつて、松前方面や北伊予の東方面から行き来する人の通り道となっていたが、旧道より少し南側に県道が新設され、昭和四年に県道「原町松前線」として竣工している。現在永田にも昔の八尺道が残り、一部はバスも通っていた。県道沿いに県道改修寄付の石碑が建っている。これは県道改修に際し、昭和二年二月、当時の金額で「中村久藏氏金壱千圓也、村民七六名九百七拾六圓也」を寄付したことを記す碑である。



県道八倉松前線(左)と旧県道(右)の合流点



2本の県道が交差する永田交差点

2 家並みの移り変わり

永田の幹線道路(一般県道「八倉松前線」)の昭和三〇年頃の家並みの移り変わりについて、小笠原盈喜さん(昭和九生)に聞いた。

永田は、七つの集落(上組、樋ノ口、本村、天神前、向江、西組、大下)で構成されていた。幹線道路である一般県道「八倉松前線」沿いの集落は、上組と天神前の二つだけで、その他の五つの集落は、県道より北に細い道(町道)沿いに点在していた。県道と大溝、横田から岡田方面に通じる南北の町道(現一般県道「砥部伊予松山線」と)が交差しており、そこに伊予鉄道の永田バス停留所があつた。停留所前に切手、ハガキのほか学用品や日用品を扱っている雑貨店があつた。道路を挟んで西側にタバコ店があつた。タバコのほか食料品、日用雑貨なども販売しており、特に夏の時期は、ラムネなどの飲料やアイスクャンディを買う人でにぎわっていた。その後、停留所前の雑貨店もバス路線の廃止や道路拡張に伴い移転し、平成一〇年頃店を閉じた。タバコ店もタバコの自動販売機の設置により平成二〇年頃店を閉じた。

停留所から東へ数十メートル行ったところ県道の北側に農協穀物倉庫と精米所があり、米・麦の出荷時には、北伊予下部落(横田、大溝、永田、東古泉)の農家の人であふれていた。その倉庫の西側に隣接して精米所があり、大勢の人が利用していた。小麦を持って行けば、うどんを打ってくれた。精米所は、平成一〇年頃施設の老朽化とゴイン精米機等の普及で廃止、取り壊された。交差点から西に一〇〇メートルほど行くと、右側に鎮守神社と華藏庵跡がある。鎮守神社境内のほぼ中央部に「小富士松」という根回り四、五メートルの大きな松があつたが、終戦前の昭和一九年に台風と虫害により枯死した。

「小富士松」について、福嶋正利著『子規の良友 武市庫太』によ



枯死前の小富士松



鎮守神社本殿と舞殿

ると、「この老松は永田村岩鋪^{いわしき}天満宮の境内の中央にあつて、通称小富士松と呼んでいた。近江の国の唐崎の松によくにて、これに劣らない立派な松で四方に枝をはり、下部の周囲五^よ余(私ども子どもの頃四人で手をつないでかかえていた)東西南北の広がり数十^よ、道路の上を渡り南側の人家の上まで枝をのばし、石柱十数本、木柱六十本余で支えていた。惜しいことに昭和十九年の台風と続いての虫害によつて枯死、しばらく根株は存置していたが、昭和二十八年十月二十二日、撤去した。(原文のまま)」との記述がある。

小富士松が撤去された後の境内は、社殿のほか一千平方^よほどの広さがあるため、普段は小学生の通学の際の集合場所として、またブランコ、滑り台、鉄棒等の遊具もあることから子ども

もたちの遊び場として、夏の天神祭の演芸大会の舞台にもなっていた。このように鎮守神社は、永田住民の日々の生活と密接に関係している場所となっていた。なお、本殿前の舞殿の壁面には、明治初期に作成されたと思われる「永田村絵図」が掲げられている。

昭和四〇年代に入ると、永田においても高度経済成長の影響を受け、県道沿いに住宅建設が進み、上組の東側に住宅団地ができ銭塚^{せんづか}組となった。また天神前については、県道より北側に家並みがあつたが、昭和五〇年代後半からの県道の拡幅工事と相まって分家等が進み、県道の南側にも住宅が建設され南天神組となり、旧の天神前は北天神組となった。現在、永田は九つの集落(銭塚、上組、樋ノ口、本村、北天神、南天神、向江、西組、大下)で構成され、戸数は一九〇、四八六人となった。

農協の穀物倉庫は、穀物の貯蔵方法の変更(カントリーエレベーターの出現)でその必要性がなくなり、平成二〇年に取り壊され、現在は農機センターや駐車場となっている。

農協の穀物倉庫があつた場所の県道の南側は、昭和四〇年代の後半に農協のガソリンスタンドや出張所及び現在の生協マーケットが建設され現在に至っている。県道の改修とともに県道より北側の各集落との連絡道路も整備され、戸数は各集落とも増加しているものの新たな集落とはなっていない。

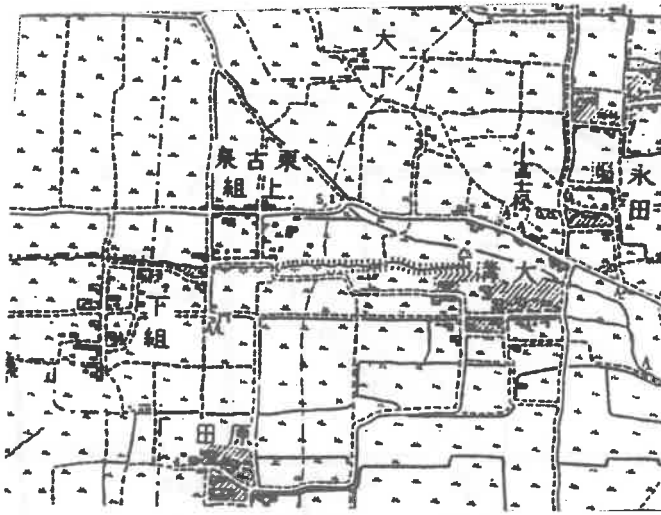
昭和三〇年頃の永田は、米・麦中心の農業を生業^{なりわい}としていた家庭がほとんどであつたが、現在では兼業農家が多く、専業農家はごくわずかとなっている。

近年県道沿いに大きな食品加工工場が新設され、また歯科医院が開業し、純農村地区であつた永田の幹線道路沿いの風景が変貌^{へんぼう}している。

(七) 東古泉

1 地区の概況

現松前町の北伊予地区の最西端に位置し、松前地区・岡田地区とも接する地域で最も新しい新田村であり、幹線道路がこの地区を東西に通っている。極楽・恵竈・上又・神取(小字)などの上組と、四ツ黒・中萱田(小字)などの下組で構成されている。氏神は素戔神社である。現在秋祭りの子どもたちによる高張提灯も上・下地区に分けて行列を行っている。



東古泉地区(明治36年測図)

東古泉の世帯数は昭和三〇年頃は八〇世帯で、現在は二二五世帯となり大幅に増加している。その要因として、松山市と伊予鉄道郡中線、国道五六号など交通の利便性により、転入者が多かったことが考えられる。また地区の人口は三九〇人から五五七人と一六〇余人増加している。

2 家並みの移り変わり

幹線道路(往環)沿い
森下富子さん(大正一四生)、早瀬辰郎さん(昭和三生)に聞いた。

の家並みの移り変わりについて、
当地区は旧松前町に近かったこと、人口が少なかったこともあつて商店は少なく、昭和三〇年頃あつた唯一の酒・日用雑貨

商店は、明治時代に散髪屋も兼ねた商店として開業し一一〇年続いたものである。酒、塩の専売品は配達が非常に多く、また、煙草は松前町内で一番の売上げを達成した時もあった。正月二日初売りの日には、早い者順にアメ玉をくれるので子どもたちが大勢集まっていた。砂糖、豆腐、コンニャク、駄菓子、下駄、襪など生活用品も扱っており重宝な店であった。地区住民の多くが利用し住民の寄場、世間話の場となつて大いに賑わっていた。しかし、松前町や伊予市にスーパーマーケットの出店が相次ぎ、地区住民に惜しまれつつ平成一九年に店を閉じた。店主は「いい時期に店を閉めたものだ。」と話している。現在は民家の並ぶ地域となつている。平成二五年になつて幹線道路沿いに、二階建アパート(八世帯、駐車場一六台)が建設され入居している。また大型ショッピングセンター「エミフルMASAKI」(以下「エミフル」という)に隣接する大地窪(小字)にもアパート(八室)が完成しており、当地区は大きく変化している。

東古泉にとつて昭和三〇年頃の大きい変化は、何といつても五反地(小字)に簡易上水道設備を設置したことである。それまで各家庭では川の岸に「くみじ(汲地)」を作り、そこで食器や野菜を洗っていた。汲み上げポンプや井戸水は水質が悪く、特にかなけ水(鉄分が多い)のために、柳の根・棕櫚・砂・木炭などを入れた濾桶で濾過して使っていた。洗濯、風呂、炊事などは川の水を使っていたが、『松前町誌』によると、伝染病予防の見地からも良くないので、配水塔築造、配水管敷設による給水を計画し、工事費二〇〇万円で、昭和二九(一九五四)年一月着工、翌三〇年二月竣工、東古泉・原田地区五二五人一日一人平均給水量八〇リットの給水を実施した。

また、現在は運行されていないが、昭和三〇年代中頃には商店前のバス停留所を一日五便の松山行き、東レ人織門前行きのバスが通っており、多くの人が利用していた。一方、通学は徒

歩で、片道二・五きりの砂利道をゴム草履せうりや下駄で通い雨の日には特に苦勞した。幹線道路沿いには二本の小川が流れており、大雨の時にはよく氾濫はんらんしていたものであるが、魚も多く、ドンコ・ドジョウ・フナ・シジミや川蟹かになどもよく捕れていた。



ある農家の人は土地への愛着が非常に強いため、交渉も難航したそうである。昭和四七年出合大橋の完成と同時に供用を開始した。次いで昭和五四年四月、旧国道五六号のうち松山市・伊予市間は県道「松山松前伊予線」となった。松山からタクシーで松前へ帰る時には「バイパスですか、五六号ですか。」と聞かれたものである。この新しい五六号は完成当時は二車線であったが、昭和五八年の出合大橋を皮切りに伊予市方面へ順次、西側を拡幅して四車線となり信号機も設置された。

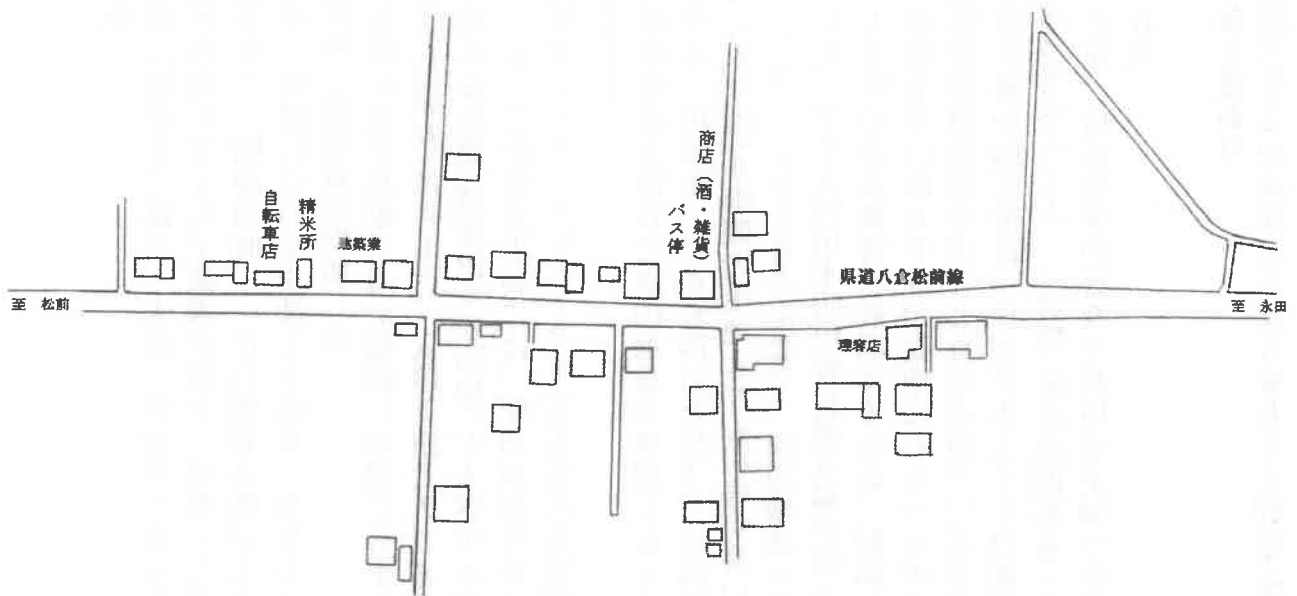
また、周辺道路の整備も行われて立地条件も整い、平成二〇年四月「エミフル」がオープンした。敷地面積は約二〇万平方メートルで、うち約六万八千平方メートルが東古泉の源助分・文五郎分・登り内（ひがしら）・東浦（小字）である。

幹線道路である一般県道「八倉松前線」は、「エミフル」のオーブンと県道バイパス（伊予神社の南）により大型車両の通行が可能になったため交通量が激増し、度々渋滞となっている。また、地区住民は、交通量の激増を憂慮し、通学道路として利用している子どもたちに事故の無いことを願っている。

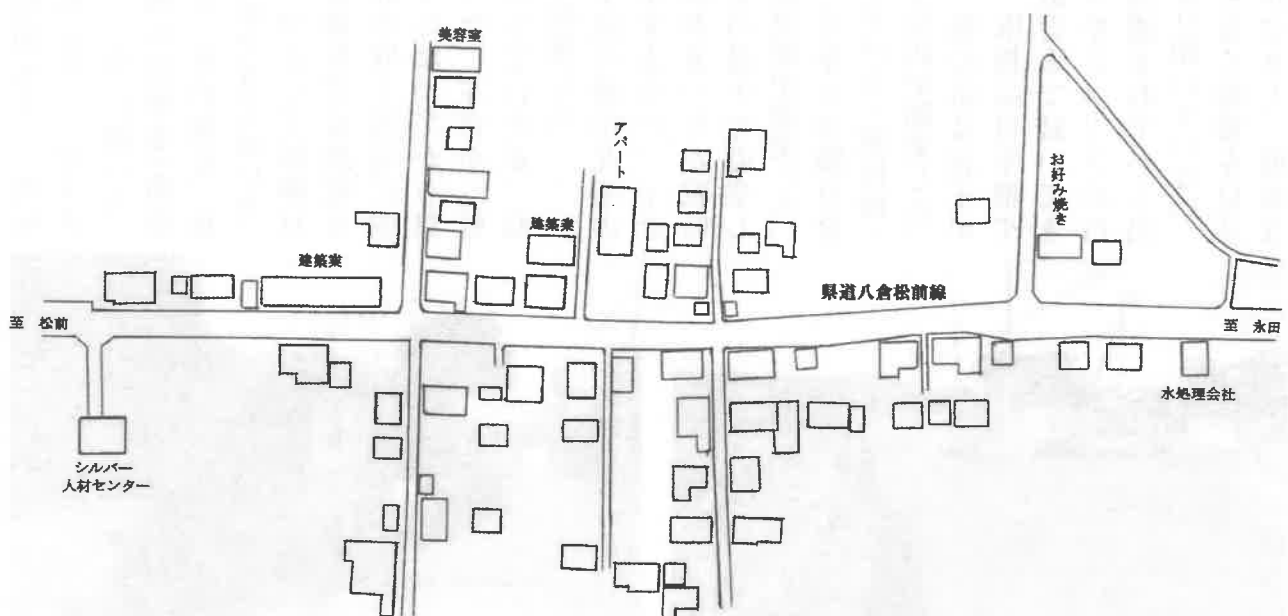
当該地区は幹線道路の改修と「エミフル」の開設で北伊予地区のうち最も大きく変貌した地区となった。東古泉地区の今後の移り変わりは予測がつかない。



昭和30年頃の家並み



平成25年の家並み



(八) 横 田

1 地区の概況

松前町の南西に位置し、鶴吉・大溝・伊予市に接する農村地帯である。地区の南にはJR予讃線が通り、昭和三六年に伊予横田駅が開設された。開設当時、一日の発着本数が上下合わせて数本に過ぎず、増便について交渉した結果、現在のように普通列車は総て停車し利用者は増加した。

横田は、大谷川の北が北組、南が南組と村組に分かれ、世帯数(昭和三五年国勢調査)は六七戸、人口三四〇人である。永田から伊予市に繋がる県道「砥部伊予松山線」が大谷川と直交して南北に走っている。この県道沿いには、昭和四四年鉄工所、平成四年伊予地区カントリエレベーター(Ⅱ米麦の大規模調整貯蓄施設)が建設された。

大谷川は横田中央部を流れて水田地帯の水源となり、流下して伊予灘に達する。川幅が二メートルから四メートルと狭く、川底が道路よりも二メートル高い天井川(Ⅱ両側の土地よりも川底が高い川)であり、大正一二(一九二三年七月の氾濫で、周辺地域に浸水等の大被害を及ぼした。今も大谷川水防用資材置き場が残っている。

愛媛県では大谷川の浸水被害を解消するため、昭和三八年から平成二二年度までの四八年間の長期にわたって中小河川改修事業(後に統合流域防災事業と名称を変更)により大改修を行った。特に横田橋の周辺部は、後述するように自動車等の通行に大きな変革をもたらした。一時期、町の巡回福祉バスが通って便利であったが、自家用車の普及で利用者が減り平成二〇年八月に廃止された。

2 家並みの移り変わり

大谷川の北側(右岸)の家並みの移り変わりを野垣(旧姓山崎)

マサノさん(昭和九生)、篠崎繁一さん(昭和五生)、徳本直之さん(昭和一三生)に聞いた。

子どもの頃には産婆(助産師)さんがいた。その後も、後継の産婆さんができて続いた。また副業の一つとして採卵目的のために養鶏をする農家もあったが、卵が安く容易に購入できるようになってから見られなくなった。左官が二軒それぞれ自営していたが、高齢などにより廃業した。

昭和三〇年頃の横田北組の家並み図に示すように、子どもの頃に商店があつたが戦時中の物資不足の最中で廃業した。終戦後、雑貨屋が開業した。そして昭和二八年には隣り合わせで新しくタバコ・郵便物・薬等を販売する店が開業した。一軒は廃業、他の店は店主が交代したり、取扱品目を増やしたりして最近まで続いてきたが、タバコやジュースの自動販売機が設置されてから出入り口はあまり開いていない。終戦後間もなく需要を見込んで製縄所ができた。簡易な



改修後の土手と旧道(左)(平成11年)



大谷川改修前の土手(平成9年)

トタン葺きの建物ができ、周りの農家から稲わらを買付け、近所の人を雇い、製造した縄は郡中(伊予市)の大きな縄取扱所へ運搬するなどして昭和三八年頃まで縄をなっていた。横田以外からも若者や主婦が来ていた。

また、農家に七軒ぐらい菊栽培が見られた。副業で主婦の仕事として、切り花を自転車で菰(こも)稲わらで編んだ敷物や炭俵にくるんで松山の花弁市場へ運んでいたが、すぐに伊予花卉組合集荷場ができて、業者が集荷するようになった。しかし、菊栽培は、安価な海外の花の輸入、バラ栽培への切り替え、栽培者の高齢化等により止めてしまった。また、一部スギやヒノキを育苗する農家も見られた。

昭和七年、横田大谷川改修工事後の大谷川は川底幅七メートルぐらい、兩岸までの幅三〇メートルぐらい、高さは家並みの屋根より高いぐらいであった。土手の上は幅一〜二メートルの道があり、土手南から通う児童の通学路になっていた。

いた。通行する人は、はるか遠くの景色を見たり民家を屋根ごと見下ろしたりできた。

この土手は何よりも南北の集落の大きな障壁になって、大字を南北に分断し、互いに集落を見通すことはできなかった。南北を行き来するには北組前の土手に架かった三本の橋を利用した。どの橋も、大谷川の土手沿いに緩やかに狭い道をゆっくり上って渡り、同じように下った。特に、自動車や単車は横田橋しか通行



改修前の横田橋北側橋詰め(平成7年)

できなかつた。見通しがきかず、道幅が狭いために対向車があると前進も後退も離合もできず、車の通行にはいつも不安が付きまといつた。当時、車が通行できる道は横田橋一本だけで橋を渡るには難儀した。平成一年の写真に見るように、横田橋完成によって坂道はなくなり、拡幅されてこれまでの難所が一直線に繋がった。そのことによって横田から出合橋に抜ける交通量は急増し、横田経由で国道と高速道路へのアクセスもよくなった。

何よりも地区住民にとっては、目の前の大きな障壁が除かれて、南と北の地区住民が互いに横田地区周辺の広大な景色を見渡すことができるようになった。そして地区住民の北と南の集落の親近感が増し、相互交流が盛んになり発展性が高まった。

現在の世帯数は一二二戸、人口二六九人になり、後継者が不在などによる数軒の空き家があるのである。

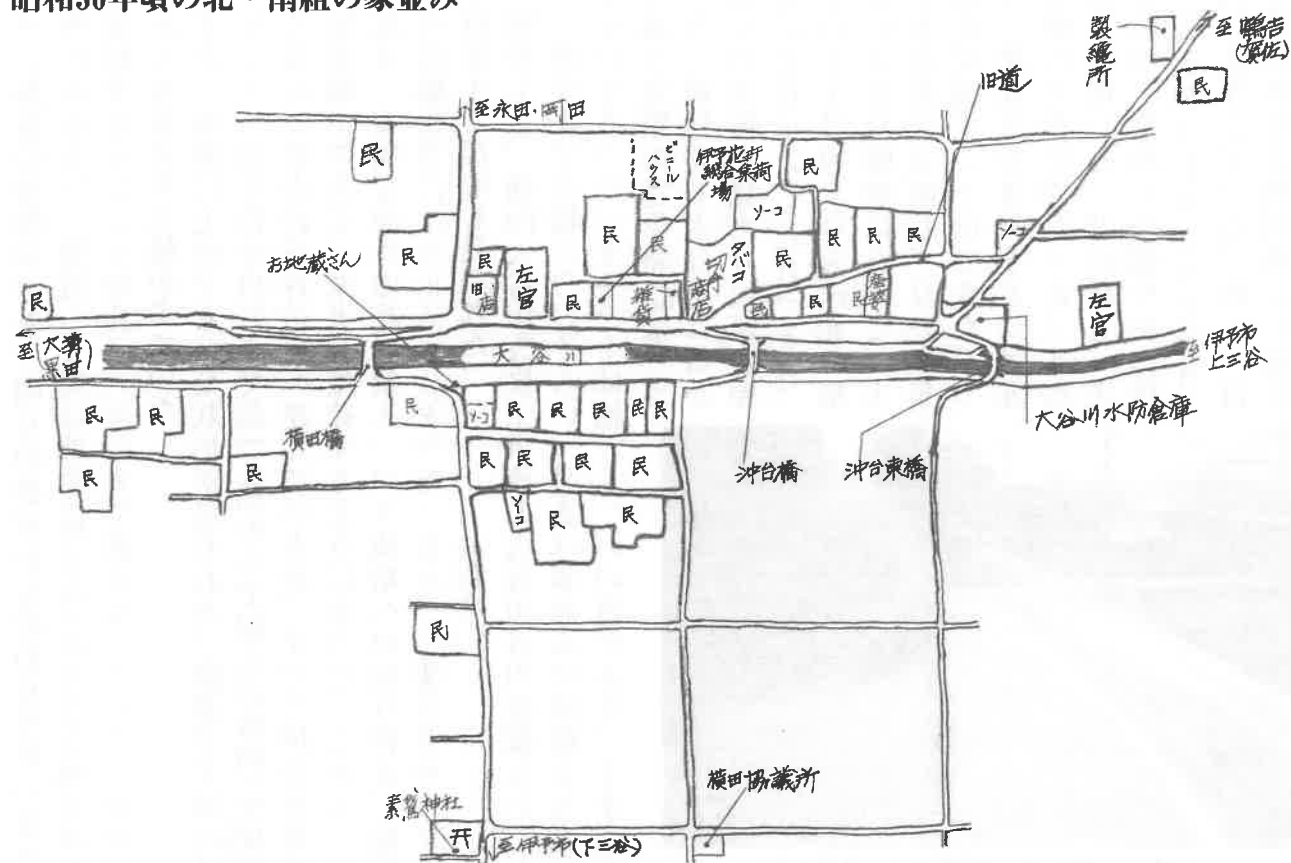


大谷川 横田橋の工事(平成10年)



改修後の横田橋北寄り(平成11年)

昭和30年頃の北・南組の家並み



平成25年の北・南組の家並み



(九) 大 溝

1 地区の概況

現松前町の中南部の農村地帯で、明治二三(一八九〇)年市町村制が実施されるに当たり大溝本村地区(以下本村)と原田地区(以下原田)が統合され大字大溝が発足した。

大溝の範囲は、東は鶴吉、西は東古泉・北黒田、南は横田・伊予市下三谷、北は永田・東古泉に接する。

道路は、地区の東部に一般県道「砥部伊予松山線」、本村を東西に走る道路(通称中川通り)、原田には東古泉から横田に抜ける南北の道路(通称辻通り)がある。

川は、横田と伊予市下三谷との境界に大谷川が流れて、永田との境界に長尾谷川が流れている。

昭和三〇年頃の本村は、上組一五戸、下組一九戸で人口は一二〇名(推測)であった。現在、組数は同じで、上組二四戸、下組二八戸、人口は一八七名と増えた。三軒の家で住居兼自営業を営んでいるが、そのほとんどが民家で構成されている。

一方、昭和三〇年頃の原田は、東組一二戸、西組一四戸、南組四戸で人口は六三名(推測)であった。現在、組数は同じで東組二五戸、西組一九戸、南組一九戸、人口は一二三名と倍増した。

本村上組に、伊予市・伊予郡養護老人ホーム和楽園が平成一六年九月に神崎から小富士保育所東側に、松前町立学校給食センターが平成一五年三月に東古泉から小富士保育所北側にそれぞれ移設された。

2 家並みの移り変わり

往還である一般県道「八倉松前線」に接していない地域であるが、往還を利用する機会は多くある。本村について栗原傳さん(昭和一六生)に聞いた。

ほとんどが農家で、子どもは時間があると家の手伝いをよくしていました。時には自宅の便所から下肥(人糞・尿を腐熟させたもの)を肥担桶に入れて担がされていました。

往還を通っている伊予鉄道バス(松山―北伊予駅經由―松前線)をよく利用しました。永田バス停留所を降りて、長尾谷川を渡ってお墓の横を通り、中川(通称)沿いの道を歩いて帰りました。暗くなつて帰るときは、街灯もなく走つて帰りました。

往還は小中学校時代の通学道路で、雨降りの時には水溜りができ、めつたに通りませんがトラックやバスが通る際には避けていました。今では考えられませんが、学校帰りに鶴吉の「かどみせ(角店)」のバス停留所にバスが止まると、真後ろからこつそりバンパーにちょつと座り、スピードがある程度出ると飛び降りるという危ない遊びをしていました。

素鷲神社は、中川通の東寄りにあり、本村に広場がないため、子どもたちの遊び場でした。当時、道路は舗装されていなかったので、車の台数も少なく道に飛び出てもあまり危なくありま



現在の本村(左から中川・中川通り)

せんでした。春祭では「子ども相撲」の土俵作りのため、町道を通り、松前の地蔵町の海岸に砂を荷車で採りに行きました。その頃の国道五六号は狭く、遊びながらの道中で、時には田んぼの肥壺に落ちて大変な思いをしました。

また、小富士保育所も開所当時、児童の退所後などは大溝の子どもたちの遊び場として園庭を提供してくれていました。特に、学校の夏休み中は毎日ラジオ体操に出かけていました。

現在、中川通り等、道路は舗装され、街灯が付き、夜も安心して通れるようになりました。生活様式はがらりと変わって、浄化槽が普及したお陰で、嫌であった汲み取りもしなくてよくなりました。

原田について向井喜作さん(昭和二三生)に聞いた。

ほとんどの家庭が農家でした。農家の生活で出た残飯は土肥(枯れ草や稲ワラを積み上げたもの)に入れていました。夏場にはその土肥をひっくり返す作業を手伝っていました。交通機関としては、伊予鉄道バスをよく利用しました。往還である一般県道「八倉松前線」沿いにある東古泉バス停留所を降りて、長尾谷川を渡って東古泉の家並みを進み、四つ辻(周辺が東組、西に進んで西組、南に進んで南組)を西に歩いて帰りました。四つ辻

から三〇分程度

帰る途中に庚申堂

があり樹齢四百

年(推定)のエノ

キがあつていつ

も見上げていま

した。何か安心

感を与えてくれ

ていました。今

でも勿論存在感



庚申堂のエノキの大樹とフジの蔓 (原田)

を感じています。小学校の時の通学路は往還を利用していました。帰りは永田から本村、そして友達と別れて長い道のりを原田に帰っていました。鮮魚を「おたたさん」「丸い桶を頭に載せて運び行商する女性」が毎日のように「おいりんかあ」と売りに来ていました。

原田では、四つ辻が子どもたちの遊び場でした。奉納子ども相撲のため土俵を作り(昭和四三年頃まで)、春祭を盛り上げました。冬場は、大谷川の土手根(土手沿い)に捕り網を持って上級生について鳥をよく捕りに行きました。

昭和三年に、原田の農家関係者で農地を利用して鶏舎(愛媛県認定種鶏場一万羽)を作り、一時は大変繁栄したそうです。その鶏舎も昭和五〇年代に撤去されました。原田の戸数は、東組の鶏舎跡地に家が増えたこと、南組の開発により入居した住居兼自営業を営んでいる家、または事業所が増えたことにより倍増しました。

辻通り等、道路や農道が整備されたお陰で隣組への行き来も簡単になり原田の絆が更に増してきたような気がします。

東組・西組で江戸時代から続いている御祈祷(他の地区ではお日待ちとも)も一時途絶えかけましたが、戸数が増えて継承しています。昔からの家は人が大勢集まるために工夫して作られていましたから問題はないのですが、近代住宅の家が増えて大勢が集まる部屋がないため改築した家もあります。南組は新しく入居された家が多くあり、毎年この時期に南組新年会を大勢の家族でカラオケやビンゴゲーム等楽しく催しています。

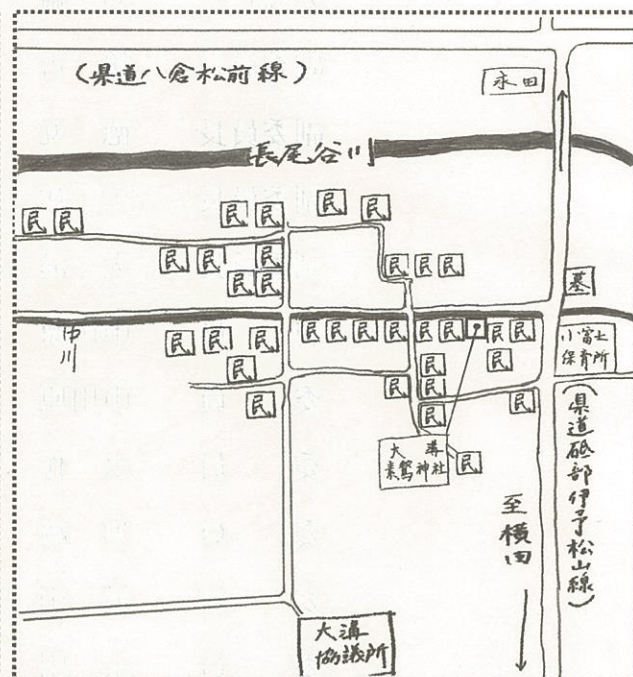
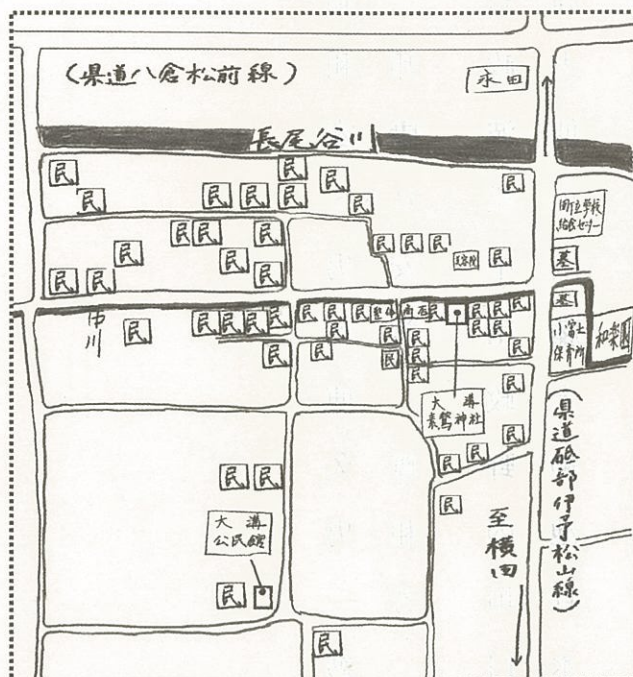
このように新しく入居してきた家は地域に溶け込むために努力し、古くからの家は新しく入ってこられた入居者を歓迎するように家で採れた野菜や果物をおすそ分けしています。

また、地区に唯一の内科医院ができたお陰で、特に高齢者の方は安心して暮らせると言っています。

本村の家並み

平成25年

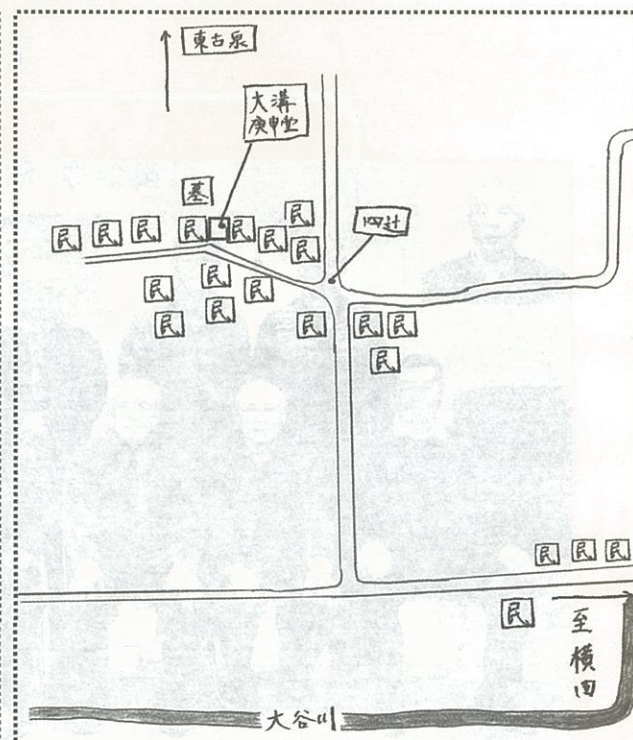
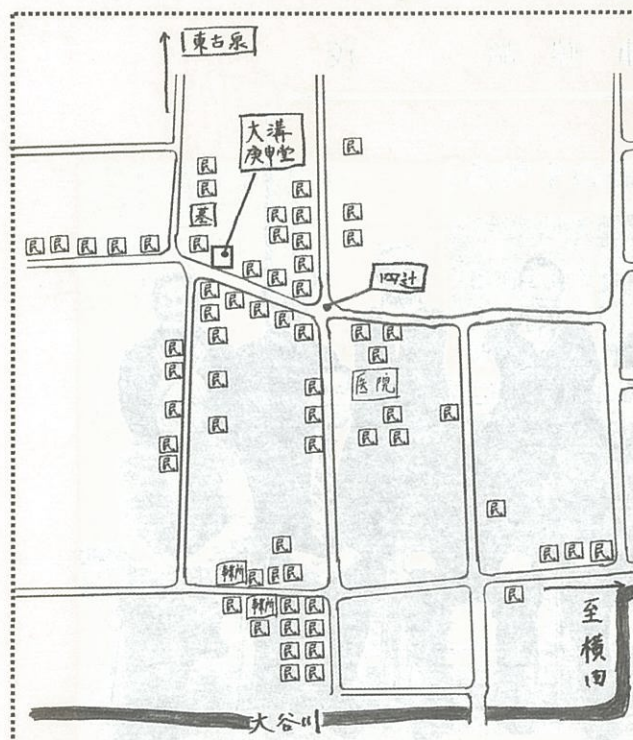
昭和30年頃



原田の家並み

平成25年

昭和30年頃



『北伊予の伝承 第12集』編集委員

委員長	神崎	高石	勤
副委員長	鶴吉	大政	邦和
副委員長	徳丸	仙波	康宏
副委員長	出作	小松	ヒトミ
副委員長	大溝	田中	安男
委員	中川原	藤田	常和
委員	中川原	大政	博
委員	出作	神野	尊久
委員	神崎	池内	和男
委員	横田	野垣	芳一
委員	永田	水口	勉
委員	永田	澤田	忠夫
委員	東古泉	稲垣	昂規
委員	東古泉	早瀬	明

(事務局) 東公民館長 西坂 洋一
主事 藤崎 茂



『北伊予の伝承 第12集』

平成 26 年 3 月 14 日 発行

発行 松前町東公民館
〒791-3161
愛媛県伊予郡松前町大字神崎210番地
TEL 089-984-1159

責任者 高石 勤
印刷 (株)ブロックス
〒791-3142
愛媛県伊予郡松前町大字上高柳383番地4
TEL 089-985-3339



この冊子は、資源保護と環境に配慮して
大豆油インキ、再生紙で作成しています。